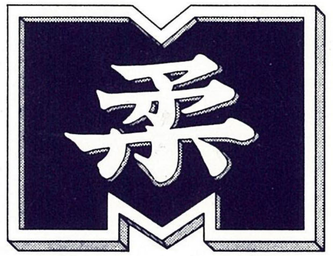
明柔

'98L 優勝特集号

全日本学生柔道優勝大会

明治大学柔道部明柔会会報



MEIJI UNV. JUDO CLUB
PERIODICALS

第47回全日本学生柔道優勝大会

日本武道館

6年ぶりの凱歌





でんかのし自治四七学学生柔道の団体戦日本一を決定する、第四七回全日本学生柔道優勝大会が、十月三・四日の両日、東京、日本武道館で行われ、明治大学が国士舘大学を破って優勝を飾り、自己の持つ最多優勝回数を十五回に伸ばした。今大会明大は吉田監督、秀島助監督の気魂、若さがそのまま選手に乗り移ったかのような快進撃で、昨年、代表戦で涙をのんだ日大に完勝、東京大会、同点内容負けで破れている中大にも借りを返して決勝に進んだ。決勝の相手は昨年に続いての決勝進出となった国士大だったが、明大の迫力は衰えず、先鋒・次鋒と連取して波に乗り、五将戦の段階で国士大初優勝の望みを断った。今大会の予想は、東海大、日大、天理大、中大の順であったが、終わってみれば副将・大将戦までもつれ込んだ試合なし、という明大の完勝で終わった。明大柔道部の猛練習の結果が遺憾なく発揮された大会であった。



最多優勝の意味するもの



部　長
百瀬恵夫

わが明治大学柔道部は、平成十年度の第四十七回全日本学生柔道優勝大会で十五回目の優勝を見事に飾ることができた。これは、十二回の優勝校である東海大学に大差をつけての勝利である。わが国そして世界の柔道界にあって名実共にリーダーシップをとってきたのが、わが明大柔道部と諸先輩であり、柔道部師範・明大柔会会長の姿節雄先生のご指導によるものであることは自他共に認められているところである。明大柔道部は、他大学に比べて部員数は最少であるが、輝かしい歴史と伝統の下に、すぐれた歴代の指導者によって世界に通用するスポーツマンシップの養成を第一義とした、人格陶冶の道場から輩出することに貢献してきた、他大学と比べて、明大柔道部は、"入学がむずかしい、稽古が厳しい、卒業がむずかしい"といった二つの難関があるといわれている。有名選手をスカウトする他大学に明大柔道部に対する"負"の条件をもっぱら流布されている。しかし、このような明大柔道部の難関を超克した学生であるが故に、柔道は勿論のこと社会人、国際人として立派に通用する人材を輩出しているのである。

このことを説明するものは、明柔会（ＯＢによる会員組織）の結束力の強さであり、柔道部に対する物心両面化わたるご支援である。目黒合宿所の多額な建設資金、毎年の奨学金、部活動費、会報費等の多額な資金のご援助である。大学当局が当然負担すべきものまで、明柔会のご支援に依拠しているのである。奨学金についてもスポーツ推薦入学制度の中に取り入れるべきものと考えられるが、今後の宿題としたい。最多優勝の明大柔道部は、すぐれたＯＢの人格者集団である明柔会にすべてを依存して、輝かしい歴史と伝統を培ってくることができた。私は、ここに改めて柔道部を代表して姿先生と明柔会員諸氏に対して心からの感謝の誠を捧げるものである。

明大柔道部の勝利は、明柔会あっての勝利であることをこの機会に再確認し、優れた指導者の下で、さらに優勝の記録を刻むことを心から念じて止まない。

「古い皮袋に新しい酒を」



明柔会幹事長
神田和夫

学生たちが優勝回数を更新してくれた。全国のＯＢたちも胸を張っていることだろう。よくやったといいたい。吉田監督、秀島助監督、大瀧・佐々木君らのコーチ陣、彼ら若いスタッフが学生たちの力を見事に引き出してくれた。指導者のタイプにはいろいろあるが、吉田君は自身の現役である立場を指導に生かした名プレーイング・マネージャーである。「監督も現役、一緒にきつい稽古をやっているから弱音はけないという気になる」と主将の猿渡が試合後のインタビューで述べている。

春、わが柔道部のシンボルである姿師範がおれられ明柔会に危気感が走った。おりしも現場のコーチングスタッフは監督以下みな二十代、しかし、明柔会はこの危気感を結束の糧とさせていただいた。この話をきかれて、先生はニコニコとうなずいておられた。先生は優勝の報せに涙を流しておられたという。吉田君以下、孝行息子たちに改めて礼をいいたい。「古い皮袋に新しい酒を」という西洋の諺がある。明治大学柔道部は永遠でありたい。

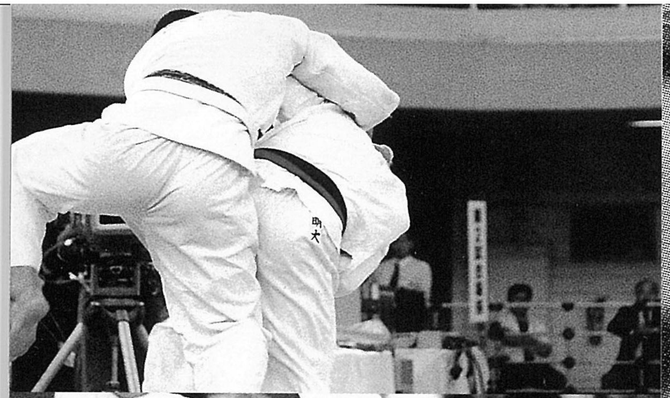
ご挨拶

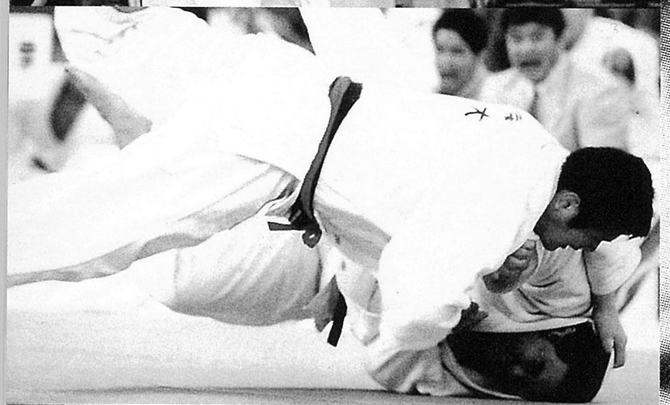


監督
吉田秀彦

皆様の応援のおかげで優勝回数をのばすことが出来ました。全国の先輩諸兄に優勝報告ができる喜びは言葉にいい表わせません。現場を代表して心から御礼を申し上げます。学生の頑張りもさることながら、このたびの優勝は明柔会の物心にわたる応援と道場で学生たちを鍛える現役ＯＢたちの汗によって成された総合力の優勝であります。大会後、監督としてのコメントを求められましたが、若輩の私にとっては確個とした指導理念を述べるまでにはまだ至っておりません。ただ、指導とは、つまるところ部員達を「やる気」にさせるという一言に集約されるのではないかと感じているところです。指導のやり方には硬、軟、中間と様々あると思いますが、現役を兼ねている私は、道場では現役の立場をつら抜き通すことが、学生の力を引き出し、またインパクトをあたえることになる、と信じてやってきました。私の現役も間もなくのことでしょうが、現役でいる限りはこのスタイルでいくつもりです。「一回の優勝はマグレという事もある、連覇してこそ本当の力であり、勝利である」と神永先生がおっしゃっていました。明大柔道部の本当の力を示すため、学生たちと切磋琢磨してまいります。変わらぬ指導をお願いし、挨拶といたします。

主将猿渡「必ず優勝」の公約を果たす

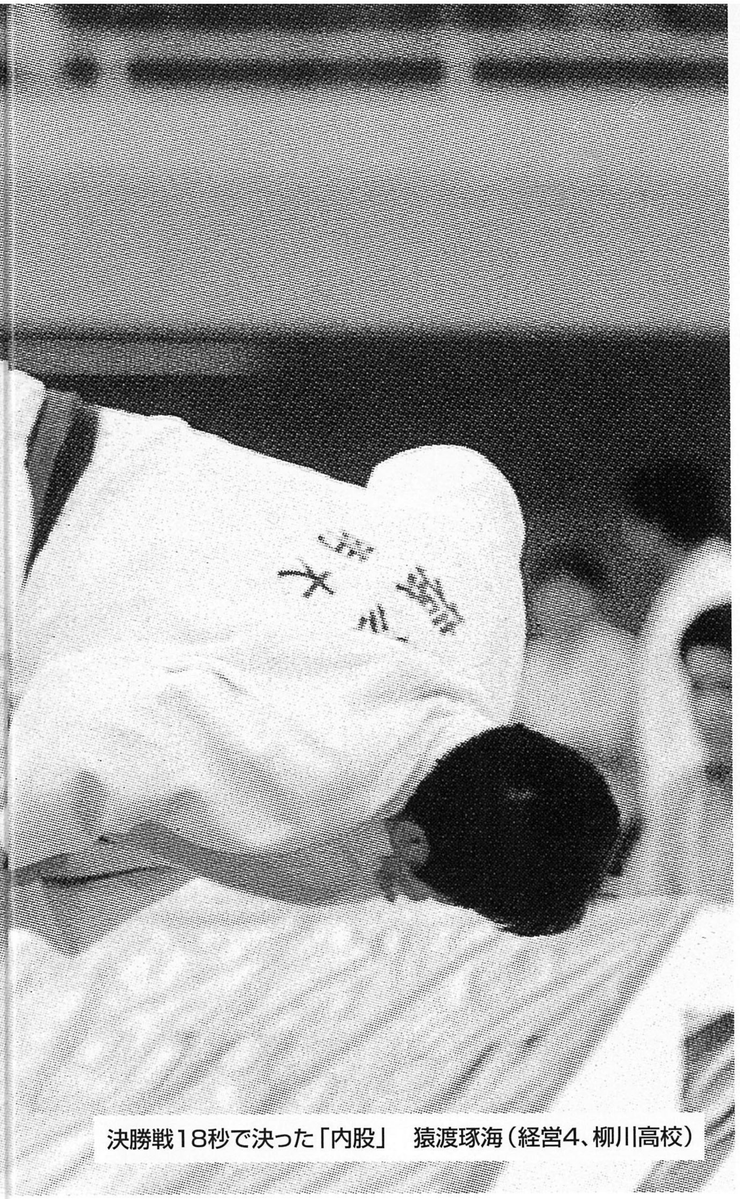






写真提供「近代柔道」





決勝戦18秒で決った「内股」　猿渡琢海（経営4、柳川高校）

決勝対国士大

奥村、立ちあがりから積極的に攻め「警告」をとる。猿渡、一四〇kgの巨漢、市之渡を内股十八秒、三木、大内狩り「有効」で失点を返すが、ブザー直前の背負いが"掛け逃げ"とされる。絶好調の高山、「注意」「警告」と追い込み最後は上四方固め、「総合勝」の一本。ここできまるかの五将戦、中濱、早々に大内刈り「有効」、相手の力と自身の肩の故障を計算しその後を難なく捌いて勝つ。優勝決定。吉永、ダメ押しの「一本勝」。すでに勝利が決まって、勝負に出た落合、五秒ルールの判定に怒る。

明治大　5　－　2　国士舘大
先　㊀奥村－警告－高谷
　　○猿渡－内股－市ノ渡
　　三木－警告－㊀秋田
　　○高山－崩れ上四方固め－高橋
　　㊀中浜－大内刈り－塘内
　　○吉永（喜）　合せ技－近藤
大　落合－反則－㊀斉藤

準決勝対中大

東京大会で、同点内容負けを喫している中大戦、吉永、現学生柔道界のトップレベルにある高橋に対し攻め込んでの引き分け。高橋の強力な"左"を完封した。猿渡、動き回る廣川を前に崩し、内股「有効」から崩れ上四方固めに決める。落合、開始早々の体落で「有効」その後も先手先手と攻めて、中村に攻めの切掛を与えず試合内容としては完勝、大きい勝点となる。あせりぎみに掛けてくる相手をじっくり捌いていた高山、払い釣り込み足で一本見事に中大戦の勝利を決める。勝ちが決まってからの二失点は気抜けしたとはいえ要反省。

明治大　3　－　2　中央大
先　奥村－引き分け－落合
　　吉永（喜）－引き分け　高橋
　　○猿渡－崩れ上四方固め－廣川
　　㊀落合－体落とし－中村
　　○高山－支え釣り込み足－大村
　　中浜－崩れ上四方固め－○清水
大　三木－払い腰－○三矢

準々決勝対日大

日大は昨年の優勝校、メンバーもほぼ昨年と同じ。代表戦でやぶれた去年の雪辱を期して闘志をむきだしてぶつかる。しかし、試合結果は予期に反してワンサイテッド。うれしい肩すかしとなる。先鋒吉永が高森を払勝「技有り」からおさえ込んだ後高山の袖釣り込み腰、奥村の内股などが型のように決まった。

明治大　4　－　1　日本大
先　○吉永（喜）－合せ技－高森
　　落合－引き分け－村田
　　○高山－袖釣り込み腰－安蒜
　　猿渡－引き分け－上口
　　○奥村－内股－庄司
　　㊀中浜－出足払い－青木
大　三木－袈裟固め－○金森

対専修大

勝ち点はみな二分以内の勝負、高山の引き分けが目立つ。

明治大　6　－　0　専修大
先　○奥村－三角絞め－児山
　　○吉永（喜）－横四方固め－名倉
　　○猿渡－横四方固め－会田
　　○中浜－内股－杉本
　　○三木－大内刈り－佐藤
　　高山－引き分け－山崎
大　○落合－払い腰－加藤

対熊谷大

体は特に小さくないのだが、守るだけの熊谷大は反則負けを重ねた。

明治大　7　－　0　龍谷大
先　○三木－反則－園田
　　○奥村－崩れ上四方固め－大塚
　　○高山－支え釣り込み足－上杉
　　○猿渡－払い腰－牧村
　　○中浜－崩れ横四方固め－上出
　　○吉永（喜）－反則－福井
大　○馬庭－反則－藤井

対秋田経大

東北地区では常勝の秋田経法大、地域外のよい高校生を集めている。次鋒の失点で、やや緊張するが、実力差があった。

明治大　6　－　1　秋田経法大
先　○三木－内股－堀井
　　馬庭－内股－○松山
　　○高山－反則－片山
　　○猿渡－内股－藤崎
　　○中浜－送り襟絞め－丸田
　　○吉永（喜）－反則－菱沼
大　○落合－大腰－鈴木

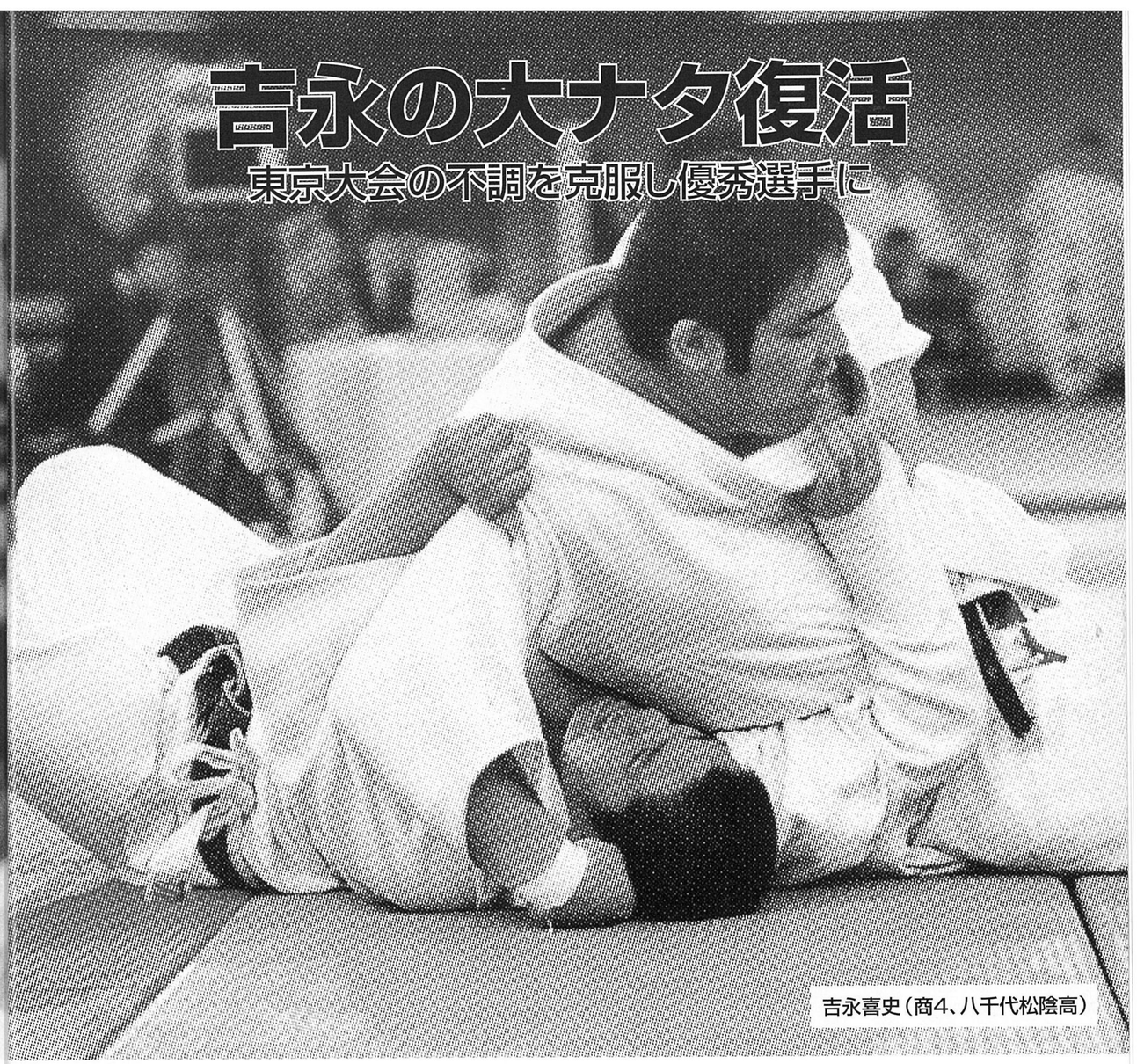


Technic.Strength.head-Work

魅せた奥村の柔道

写真提供　毎日新聞社

奥村俊樹（政経4、秋田高校）



吉永の大ナタ復活

東京大会の不調を克服し優秀選手に

吉永喜史（商4、八千代松陰高）

経験は勇気を作り出す



岩崎　勇

全日本学生柔道優勝大会に見事優勝を果たされ心よりお祝い申し上げます。

関係者各位のお喜びは、ひとしおかと推察します。今回の優勝を機に昭和五十六年五月一日発行の「学生柔道三十年の歩み」を繙いてみました。その内容は非常に詳しく学生柔道の歴史が語られあります。その内で、「日本学生柔道の流れ」の項目で「学生柔道理想の達成」という文章が掲載されております。私はこれを読んで、まさしく明治大学柔道部の進んできた姿だと確信しました。優勝!!この目的を達成するためには大変な努力が必要です。関係者諸兄のお陰で今回大きな求心力が完成されました。優勝の喜び、勝者を倒そうとする敗者の闘志、一層の努力が要求されます。それぞれの環境に応じて明柔会を発展させようではありませんか。最後になりましたが、中国明時代の「菜根譚」の一節に

勇気は　自信に先行し
　経験は　勇気を作り出す

人それぞれどう受け止められるか、私の好きな言葉です。

二十九年度
福岡県那珂川町在



重松裕之

We are the best!

九月九日。

久しぶりに姿師範をお見舞いする。「吉田、秀島が頑張ってくれてます。猿渡達も最後の年ですから、来月の優勝大会ではきっと勝ってくれるでしょう」と話すと、「うん。うん」と力強く頷かれた。

九月三十日。（試合三日前）

道場で試合前の稽古を見る。高山が好調。猿渡、奥村、中濱、落合は堅調。吉永、三木に若干のアドバイス。選手以外の学生に部全体のチームワークを指導。

十月四日。（試合当日）

朝七時に合宿所に電話。一回目のコールで猿渡が出る。「しっかりやってこい」と言うと「はい。頑張ります」との返事。「一発でお前が電話を取るなんて、幸先良いじゃないか」と無理やりこじつけると、「はい。絶対勝ちます」。

名古屋で競馬の開催業務に執務するも落ちつかない。試合の経過を浜本先輩の携帯電話から逐一貰う。吉永が対日大先鋒戦を制したと聞き、「優勝できますよ」と言うと、「行けそうな感じだぞ」と浜本先輩も興奮の様子。

決勝戦も中盤戦のはずだが電話が鳴らない。矢も楯もたまらず赤井沢の携帯電話を鳴らす。丁度、中濱の試合最中。しばらくして大歓声。「優勝です！優勝しました！」と赤井沢の絶叫。

早く学生の顔が見たい一心で、切符も買わず飛び乗ったのぞみ号が遅い、遅い。

道場までダッシュで駆け上がった。何とか祝勝会に間に合った。学生たちの歓喜の顔、顔。やった！やった！と学生と抱き合った。優勝カップでビールを飲んだ。一気に飲めなかった分は頭からかぶった。百瀬部長にお祝いを言い、吉田監督、秀島助監督と握手。優勝旗を手に優勝の歌を歌った。学生達が胴上げをしてくれた。

おめでとう。おめでとう。学生達は本当に良くやった。ありがとう。ありがとう。吉田、秀島、お前らは指導者としても超一流だ。

連覇と最多優勝回数更新に向けての健闘を切に祈る。

十月六日。（試合後日）

監督と主将が優勝旗を持って、姿師範に優勝の報告をしたとのこと。その様子を聞いて、また鼻の奥がジンとして目の汗が出そうになった。優勝おめでとうございます！

五十七年度、ＪＲＡ名古屋勤務（前監督）

激戦を制した勝利

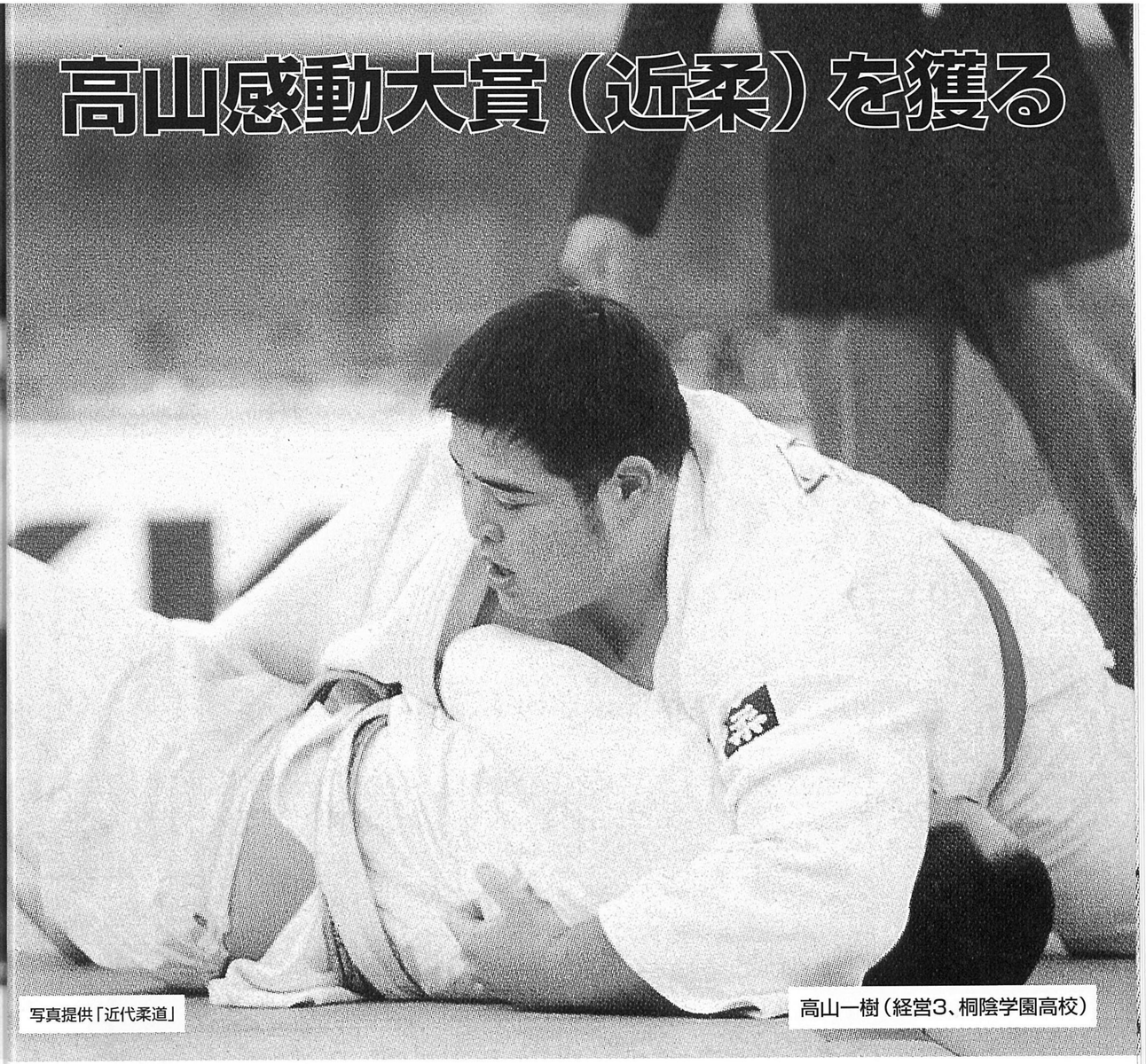


村井正芳

吉田監督、選手諸君、そして部員の皆さん、優勝おめでとう。現役の皆さんの喜ぶ姿を見てさらなる感激を味わいました。現在、学生柔道界は伝統校である明治大、天理大、日大、中央大、東海大、国士舘大など多数の実力校がひしめく中で日本一の座を獲得することは至難の技であり、今回の快挙に大きな拍手を送りたい。今大会では、吉田監督が打ち出す作戦が冴えに冴えわたった。先鋒から前半戦に勝負を賭けた監督の気迫が選手に伝わり、もつれた試合展開や膠着した試合内容の中で一瞬の隙に戦況を一変させる場面が多数見られた。これは、バルセロナ五輪はじめ世界選手権などで世界の強豪を相手に厳しい戦いを挑んできた吉田監督の体験が技術指導に活かされ、これを選手たちが修得、本大会の大事な局面で実力が発揮されたものと思う。長い間優勝から遠ざかるとＯＢはじめ各方面から様々な意見が百出、関係者の間に緊迫感がみなぎってくる。今回の優勝はこのギクシャクした雰囲気を一掃する貴重な勝利であった。優勝インタビューで吉田監督が次はシドニー五輪に向けて頑張りたいと決意を表明したことは大変嬉しかった。

原稿到着順

高山感動大賞（近柔）を獲る



高山一樹（経営3、桐陰学園高校）

写真提供「近代柔道」

吉田選手の技は天下一品であり怪我さえ克服できればまだまだ世界の上位を狙えると確信している。昨年2月、明柔会から新日鉄に吉田監督就任の依頼があったが、私は双方の立場でお世話をした。この時、新日鉄内では現役選手の障害になると心配する意見が多かったが、関係者の期待どうり活躍、成長する姿は楽しみである。これまで国際大会で選手として培ってきた実力に指導者で得た体験を加えシドニー五輪を目指し再挑戦してもらいたい。今回の明大チームは、連続優勝を期待させる雰囲気をもっており、是非連覇に向けてさらなる研鑽・精進を重ねていただきたい。

三十九年度　新日本製鐵株式会社

優勝の歌　大村勝利

とるならとってみろ優勝旗、渡しゃせぬ、気持いいじゃないですか。喜ばしいじゃないですか。吉田監督、選手部員諸君、優勝おめでとう。そしてありがとう。

武道館に応援に行っていた息子が、中濱君が勝ったと同時に電話して来ました。「瞬絶句の後、ヨッシャヨッシャー」と叫んでいた様でした。（若しかしたら自分の声だったかも）この晩は優勝の歌を口ずさみ乍ら、学生時代の思い出を肴に、しみじみと美酒に酔いしれたのは私だけじゃない筈です。

私の在学中（昭和三十五年～昭和三十八年度）は、後に第三期黄金時代と言われる時で、東京オリンピックを間近に控えて、柔道熱は最高潮に達していました。明大道場には神永先輩はじめ、名だたる先輩方が連日顔を揃えていましたし、しばしばオリンピック候補の強化練習が行われていました。部員七、八十名、否応なく、猛稽古に明け暮れていました。よく世界各国から選手が来ていましたし、中でも先年来日された、米国上院議員のキャンベル氏（米国無差別代表）等は、まるで明治の部員の様でした。

部員と言えば、スカウトにも随分と歩きました。葉山先生、曽根監督、工藤助監督、神永コーチのお供で、山口、岡山国体、新潟、松山インターハイ等々。スカウトは部の力と伝統を維持する為には欠かせない大切な仕事です。しかしそれが仲々難しいことなのです。一、入学の問題、一、学資の問題、一、宿舎の問題等々クリアしなければならない問題が沢山ありますが大学当局は何の得点も与えて呉ませんので、本当に苦労したことを覚えております。合宿所こそ立派に出来ましたが、現在の実状もその頃とあまり変わっていない様です。奨学金委員としてご苦労なさっている杉原先輩や細川君、そして学生の近くでお世話くださるOB各位には心からお礼申し上げねばなりません。伊豆の田舎で細々と暮らしている私には、仲々上京する機会がありません。一度ゆっくりと吉田監督のもと、少数精鋭で頑張っている学生諸君の稽古振りを見てみたいものです。益々の精進を期待しています。優勝の歌はいいですね。来年も再来年も、胸を張って声高らかに歌って下さい。歌わして下さい。最後に姿先生の一日も早い御回復を祈念しながらお祝いの文とします。

三八年度　大村肉店　下田市在

正々堂々カミソリ三木



この優勝を連覇に向けてのスタートに!!



渡辺政雄

優勝おめでとう！心からお祝い申し上げます。…と書きながら、大会後、道場での祝宴で吉田監督の挨拶を思い出した。"連覇してこそ意義があり、価値がある"とその言葉。そこで来年は大丈夫か？と自らに問うてみた。残念ながら、答えは、優勝の可能性は大変厳しく、容易でないことがうかがえる。

今回の試合を見ると、上位進出八校の実力は紙一重、どの校が優勝してもおかしくない。

又決勝相手の国士舘は、三年生以下の構成で来年も同一メンバーで戦えるのに対し、明大は、主力の猿渡、吉永、奥村、三木の四選手が卒業、残るのは、高山、仲濱、落合の三選手。然し私の見る限り、仲濱、落合君には、未だポイントゲッターとしての実力が備わっていないと見た。

連覇するには、この二年の間に、先ずこの二人を上位校に通用するポイントゲッターに育てること、且つ、強力な四選手を育成することが焦眉の急であることは論をまたない。

然し、育つか否かは、あくまで部員の気持ち一つで決まる。来年の優勝を可能にするには、部員諸君の奮気しか無い。

部員諸君！　レギュラーの席が四つ空いたのだ、このチャンスを逃す手は無い、この地位を獲得出来る絶好のチャンス、誰の為でも無い自分自身の為に挑戦して下さい。

青春は一度しか無い、自分の限界に挑戦出来るのも、この時代しか無い事を肝に銘じ、お互いが切磋琢磨し、来年の優勝に繋げて下さい。

ＯＢも柔道部の伝統を守るべく、支援体制に万全を期しております。今回の優勝も、部員各位の努力と、神田先輩、杉原君以下、ＯＢ各位の側面振動があってこそ成し得たものと確信します。

明大柔道の強みは、現役・ＯＢが一枚岩であること、苦難に対しては、一丸となって立ち向かうのが、明大柔道部の伝統です。

この絆をさらに強固にし、来年の優勝に向けて精進しようではありませんか。

二九年度、横浜市在

優勝おめでとう

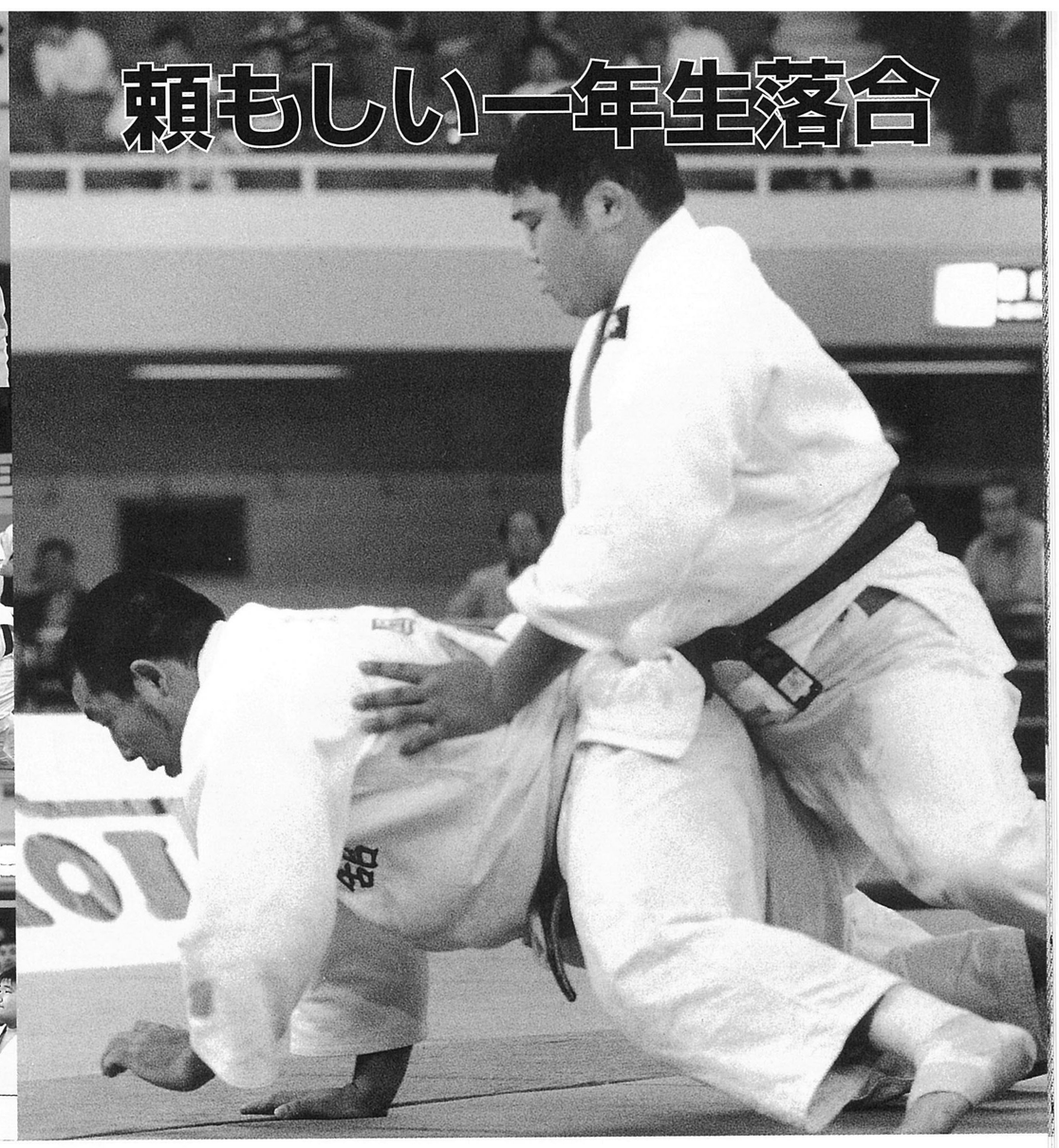


関勝治

六年ぶりの優勝、まさに伝統の勝利







頼もしい一年生落合

決めたのは中濱

肩の故障をものともせず

柔道部（部長、監督、現役）明柔会が一丸となっての勝利である。

東京大会から一ヶ月、本大会での明大の優勝を予想した人は少なかったと思う。マスコミなどの見方では、東海、中央、天理、日大、国士舘が本命であったが、この一ヶ月を生かした監督、助監督、コーチ、OB選手諸君の努力が彼らの予想を見事に覆した。きびしい戦いを抜け出した真の勝利である。勝因は四点にあると思う。一、監督の采配（選手の力、特徴を完全に把握していた）二、選手個々が相手チームをよく研究したこと。三、四年生を中心に部員一同が一丸となったこと。四、猛練習の成果で、どのチームよりスタミナ面でまさっていたこと。団体試合のセオリーは、失点を少なくするのが原則である。当然ながら一点取られていれば二点取らなければならないのである。

我々の四連覇した時も東京大会でやぶれ、その後の一ヶ月の猛練習で全日本を制覇したことであった。往時が思い出されて懐かしい。「勝って兜の緒を締めよ」と言う、部員諸君はこの勝利を忘れずに尚一層精進し連続制覇を続けていただきたい。

この勝利を一番喜ばれたのは入院されている姿先生です。勝利の翌日私がお訪ねした時、ちょうど奥様が先生と優勝の話をされていたところでした。先生も奥様も目に涙を浮かべてとても喜んでおられました。「関」もう二度優勝旗が見たい」と常々おっしゃっていましたので感無量のお気持ちだったと思います。十九年ぶりに優勝した時は、吉田君が主将で二連覇をしたときは秀島君が主将、現在は吉田君が監督で秀島君が助監督めぐり合わせとはいえ何か因縁を感じます。この二人が選手と一緒に優勝旗をもって優勝の報告に行きました。先生は殊の外お喜びになり病院の屋上で記念写真を取ることになって、皆に囲まれ、晴々としたお顔で屋上に向かいました。

来年の大会には是非先生と一緒に応援に行きたいと心から願っております。選手諸君本当にありがとう!!後輩諸君も連覇に向け精進して下さい。

明柔会員の皆様方も厳しい情勢下であろうかと思いますが、今後ともご支援の程心からお願い申し上げます。

三九年度　JRA



古賀愛人

“15勝万歳”姿師範の思いに答え連覇を

十五回目の全日本学生柔道優勝を記念して明柔会の記念号を発刊するに当たり、寄稿の機会を与えていただき感激に堪えません。思えば明柔会報第一号（昭和三十八年七月）の発刊に当たり、“夜明け前”というタイトルで、柔道部ならぬ“柔道クラブ”発足の模様を記しましたが、既にあれから五十二年の歳月を経ていることを思うと感無量なるものがあります。とにかく私が昭和十八年学徒動員で入隊し、はるかシンガポールから復員してきて復学したのが二十一年十月。駿河台の大学周辺は全学連の赤い大きなビラやステッカーがべたべたと貼りめぐらされ、また米軍のＧＨＱからはスポーツとは言っても中等学校や大学での柔、剣道は一切禁止すると言われていた時代だっただけに、今にして思えば『私がすべて責任を持つ、君の様な柔道部を復活させたい』と言うような学生が出てきてくれるのを私は待っていたのだ」と答えていただいた当時の双川理事長（名横綱双葉山の生みの親）がおられたからこそだと思います。早速私は復学組の青木清、山崎昌徳（宇和島）堀口武（岐阜）の三君と協議、三船久蔵師範（当時八段、後に十段、文化功労賞受賞）のもとで苦楽を共にした斉藤政雄先輩（元主将、明大講師、後、教授）を師範役にして私が主将となり、空手部の道場となっていた昔の道場を返して貰い、八島輝徳大先輩のお世話で新しい柔道場用の立派な畳がどこからか運びこまれ、十一月には早くもクラブ開店の運びとなったのです。

こんな難しい時代ではあったが部員は“柔道クラブ”の看板を道場の入口に掲げた翌日には早くも初段級を含めた二十名余りの入部者があるといった有様。

翌年の二十二年から二十三年にかけて宮崎博通（北九州）金谷久（拓大）伊藤信夫（東京ガス）神田和夫（明大体育課）小野寺文雄（愛知県津町）さらに二十三年曽根康治（主将、全日本選手権者）他門屋賢悟（札幌市）大野忠博（三重県警）君ら優秀な連中が続々と入学してきて昭和二十六年全国学生柔道連盟が結成されるや曽根時代が開幕、三年連続優勝の偉業を成し遂げた時は、私は九州に在ってひそかに感動に浸ったのをいまでも忘れることはできません。その後幾多のチャンピオンを生み、また神永昭夫君の様な逸材を世に出してきたその裏には、私にとっては三船門での先輩という意味も含めて、日本柔道界に有名を馳せてきた姿師範の指導あったればこそと思い、師範が念願とされてきた連勝を、この十五回目を機にさらに達成される様念願して止みません。

とにかく心から万歳を叫んでさらなる前進を祈ります。

十九年度　西日本テレビ（株）



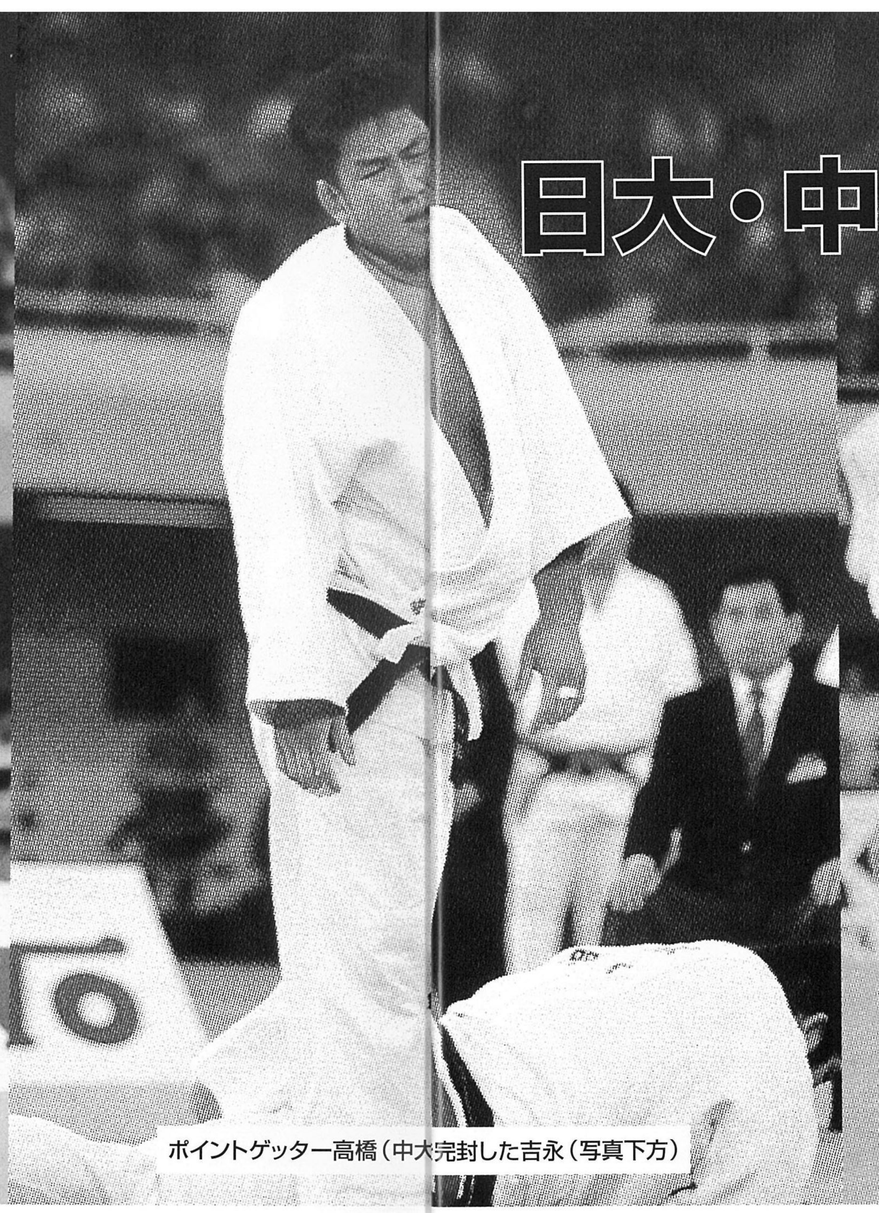
上村春樹

吉報をコロンビアのカリで聞き、鳥海又五郎先輩と祝杯を上げた。世界ジュニア選手権大会へ遠征中だったため、感動の優勝の場面には立ち会えなかったが、国際電話で「明大優勝」の言葉を聞き「よくやった」「よくぞ優勝してくれた」と二人で大喜びした。戦う前の大方の予想は、明治は優勝の可能性は残しながらも、多柔道部員を持つ体育系の大学に苦戦は必至で、戦力では四・五番手という評価であったが、試合はすべて中盤で片が付く危な

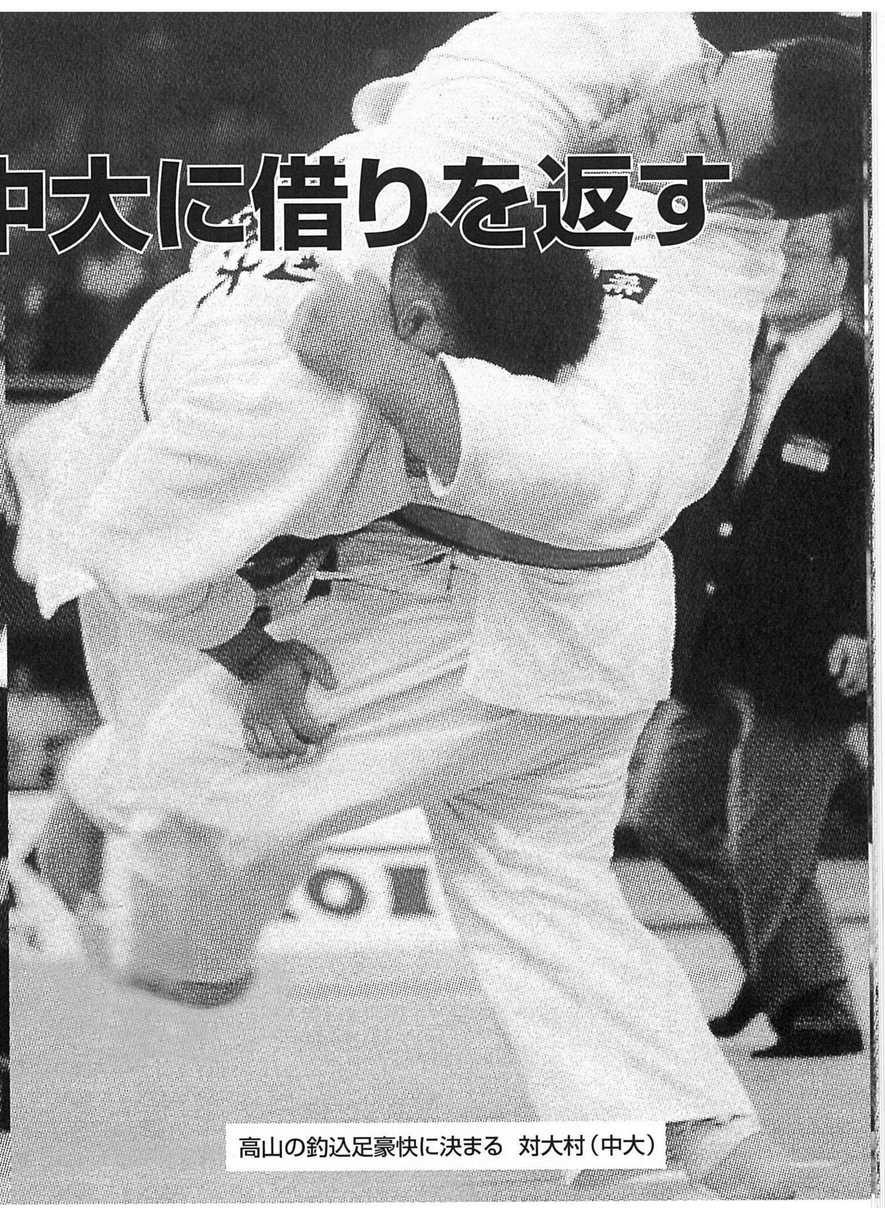
日大・中大に借りを返す



猿渡、広川（中大）を一蹴。



ポイントゲッター高橋（中大）完封した吉永（写真下方）



高山の釣込足豪快に決まる　対大村（中大）

そして心と心のふれあいを



河原月夫

四十七年度　旭化成工業（株）（元監督）

六年ぶり十五回目の優勝おめでとうございます。

明大優勝を耳にしたのは、県柔連主催、神奈川国体激励会の席上であった。地元の大学柔道関係者からである。その一声が「強い、明大は強い」であった。その席には明大進学を熱望している高校生が二名出席しており、その顔には羨望的な喜びが満ち、小生も勝った時は淡々にとはいうものの喜びは隠し切れなかった。二日程過ったある日、名古屋に単身赴任している前監督の重松君と息子とで重松君の前監督としての労いも含め大いに祝杯を挙げ痛飲した。その席で私が『前監督としておめでとう、大変でした君の貢献も大でしたね』と言うと彼は、『選手・吉田監督そして全てのOB・関係者の御陰です』と即座に答え、飽くまでも謙虚であり、そこにも又一味違った明大柔道部の素晴らしい一面を見た。全日本学生柔道優勝大会に於いて十五回優勝できたということは何なのかと自己の学生生活を顧みながら見てみると、明大柔道部には全国から集まった優秀な人材が、明大柔道部を通じて人間形成の実現を目ざすと言う共通の目的で結ばれ、その同士的結合が合宿所での共同生活や稽古・試合・学習のみではなく、心を開いて語り合う一杯の酒や、僅かの余暇を見つけての趣味の集い等を通じて限りなく拓けていったものと感無量なものがあります。人一生の流れの中で考えてみると、もちろん学生生活での稽古・試合そして学習それらを通して修得された事も大切であるが、その間に培われた、いわゆる同じ釜の飯を食べ、共通の目的に邁進しているという、心と心のふれあいを基調とするOBを主体とした繋がりというものが、いかに大切で貴重なものであるかがしみじみ思われ、明大柔道部の伝統を護るということの意義の中には均質的な集団ではなく、幅の広さと奥行きの深いずっしりとした骨太の人間性が求められるのであり、それを育むためには何と言っても人間愛のある学生生活が不可欠であり、その指導が必要であることは言うまでもなく現在に至っている。私にとって、試合等でそれぞれの地で諸先輩・後輩諸氏と遇う機会も度々あり、その感をつくづく強めている次第です。明大柔道部には、こうしたものを基調として構築された有形無形の団結力が全日本学生柔道優勝大会において十五回優勝という輝かしい金字塔として結実したものではなかろうか。明大柔道部が将来に向けて更に発展し、多くの明大柔道部出身者の心の故郷であり、心の糧でありつづけることを強く希ってやみません。

四十六年度　愛知県警

生涯チャレンジ精神を忘れずに



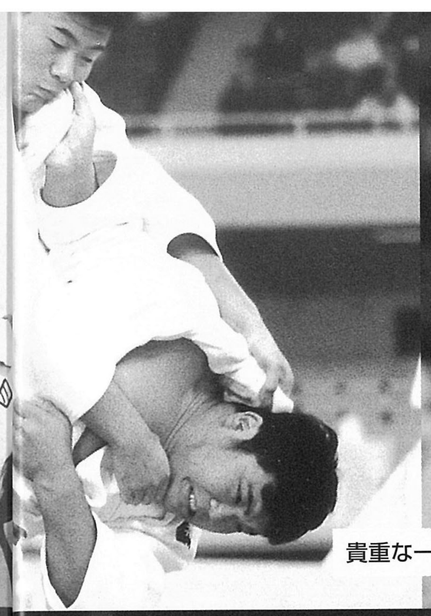
原　吉実

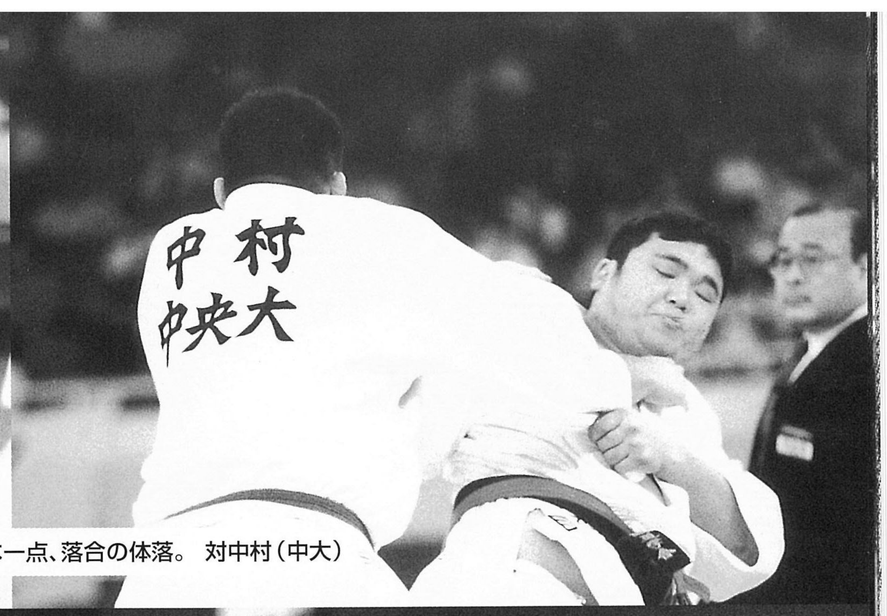
全日本学生柔道優勝大会、六年ぶり十五回目の優勝おめでとう。当日、日本武道館から、吉田監督、秀島助監督の電話があり、「国士舘大学に五対二で勝ち優勝致しました」と知らせを受け、本当に、監督、助監督、そして何よりも戦い抜いた選手達、それを影で支え毎日のトレーニング、稽古で、血と汗を流した学生達に、心より祝福を言いたい。

優勝した今だからこそ、あえて言うが、監督助監督、そして、学生は、この優勝の喜びを忘れず、今まで以上、いや、今までの倍、稽古に、励げまなくてはならないだろう。それは優勝するのは、もちろんの事、二連覇、三連覇と、優勝を重ね、再度明治大学体育会柔道部の黄金時代を、築きあげていかなくてはならないからだ。いつまでも、優勝ムードに、酔い、舞い上ってばかりは、いられないのだ祝げのない完勝だったと聞いている。これは部を良くとりまとめ発奮させた指導陣、気持を一つにし自分の任務を完全遂行した選手、そして部を応援するOBが一丸となったことが「勢い」となって表れ、この成果につながったのだと思う。だが、優勝することは、他大学のように学校が全面的にバックアップする柔道部と比べ、現在の明大柔道部をとりまく環境からすると非常に厳しいものである。条件の整った他大学との壮絶なスカウト合戦、少ない部員、授業の関係で工夫しなければならない練習時間、狭い道場・貧弱な設備などの悪条件を乗り越えて勝ち取った優勝は本当に価値のあるものである。改めてその悪条件を克服した選手、ボランティアの指導陣に敬意を表したいと思う。しかし、浮かれてばかりはいられない、来年への戦いはもう始まっている。今年負けた学校は捲土重来を期し、死にものぐるいで強化に努めるだろう。我が明治大学も連覇を目指し、早速始動しなければならない。その来年についてだが、今年も頑張った高山や中濱、落合らの実力アップが計算でき、また、有力新人の入学も見込まれていることから可能性ありの声がきかれる。しかし連覇は生やさしいものではない。連覇を為すには、部員一人一人の力が確実に底上げされなくてはならないからである。選手レベルだけのことではない。部員各々が目標を明確にし、練習に自身の創意工夫をとり入れる、そして疲れきってから、あと一踏張り出来る気力と体力を部員全員が身につけてこそ事態は好転するという事だ。今後、明大柔道部を取りまく環境がにわかに好転するとは思わない。しかし、指導陣、部員、OBが一丸となって取り組めば、「強い明治」であり続けることは決して不可能ではない。事実、今回の優勝は三者の力の結果によって為されたのである。とにかく学生諸君は頑張ってくれました。四年生は神永先生が生前言われていた「柔道人たる前に紳士であれ」という言葉を心に刻み胸を張って社会に出ていって下さい。

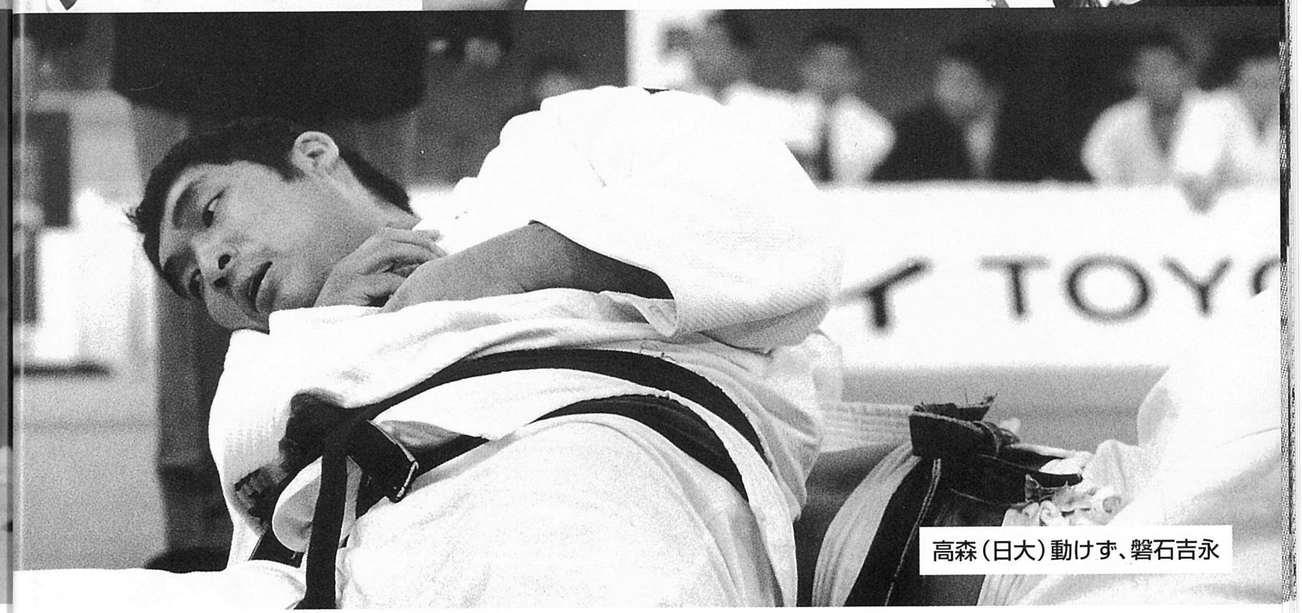








貴重な一点、落合の体落。 対中村（中大）



高森（日大）動けず、磐石吉永

勝会で美酒を飲み大喜びするのもよい、ハワイに、全員で楽しく行くのもよい、しかし、いざ稽古の時になったら、今まで以上に気を引き締め直し、常に「チャレンジャー精神を、忘れる事なく今まで以上、精進してもらいたい。また、卒業後も、チャレンジャー精神を持ち続け、生涯チャレンジャー精神で、がんばってもらいたい。最後に、学生達は、明治大学柔道部が、今回、優勝出来たのも全国、明柔会の方々の、御支援そして、御協力が、あった事を、肝に命じ、次なる大会を目指してくれる事を望む。

四十九年度　第一船舶企業（株）　（元監督）

全日本学生柔道優勝大会優勝に思う



山口友孝

十五回目の全日本学生柔道優勝大会優勝おめでとうございます。私も昭和三十二年度の全日本学生柔道優勝大会優勝を一年生で体験致しました。事実上の決勝戦といわれた天理大学との二回戦から次鋒で出場、得意の左袖釣込腰で天理の田村四段に勝利して優勝に貢献出来ましたことが、今年六十才になった私ですが未だ最大の喜びの「体験」であります。その時の感動は今でも鮮明に思い出す事ができます。試合は二対二の同点となり、神永先輩が代表戦二回目で決着をつけ、三対二で天理大に勝利、決勝戦は早稲田大学に楽勝して優勝致しました。当時の明大柔道部は百人からの部員数を数え、その中から一年生の私をレギュラー七人の選手に抜擢して頂いた事は、全国的には無名だった私を、秘密戦力として起用して頂いたのではないかと自分なりに解釈して居ります。それにしても新人の私を最も重要な天理戦に次鋒で起用した姿師範、葉山監督、曽根先輩はじめ諸先生諸先輩の皆様の英断に今でも深く感謝して居ります。明大柔道部で鍛えて頂いた実力で、卒業後、博報堂で三年間選手生活の後、メキシコに渡り二十三年間の柔道指導生活。メキシコのナショナル・コーチとしてオリンピック、世界選手権等に参加、世界を舞台に素晴らしい体験を致しましたが、やはり全日本学生柔道優勝大会に優勝した時以上の私の体験自慢話はありません。優勝した時の写真を取り出して、賞状を持っているのがキャプテンの徳永先輩、優勝旗は二年先輩の神永先輩、優勝カップは背負い投げの名人徳山先輩、その隣が四年生の野田先輩、前列左が二年生の黒住先輩、真中が同級生の重松そしてこれが私ですと機会ある度に自慢して居ります。そしてその自慢話に何時も付け加えるのが、明大入学前に特別招待されて参加した埼玉県寄居での春の合宿練習です。寝技の全く出来なかった私は、寝技練習の最後の試合で何時も負け残り、グランド一周の飛び跨びで、また私には凄まじい限りの激しい練習で、立って階段を上がれず這い上がったことも今では自慢しています。全日本学生柔道大会優勝という素晴らしい体験をされた選手の皆様、連覇を目標にまた、数多くの先輩が成し遂げた全日本選手権、世界選手権、オリンピック優勝をも目標に頑張って下さい。

三十五年度卒　静岡県土肥在　ホテル経営

明治魂を見た！



飛松秀樹



内股一本!80kgの奥村が110kgの庄司（日大）を

いい試合だった、心の底からうれしい、と素直にそう思った。試合を見に行くことができず、一週間遅れのテレビで試合を見た時の感想である。その日は一人、風呂で校歌を歌い、妻の「いいかげんにしたら?」という声を無視して勝利の美酒に酔った。自分が明大柔道部のOBなんだと再認識した。

今年の大会は日大、中大、天理大の前評判が高かった、特に日大は前年度の優勝校であり昨年のメンバーから二人しか抜けていない。当然、日大有利と思われた、対日大戦だったが明治は快勝した。技量も勝る事ながら、テレビから伝わってきた事は、気迫の違いである、一人一人の選手の勝利への気迫が日大を圧倒していた、これぞ明治魂と感じとった。

吉田新監督と部員全員との強い信頼関係も伝わってきた。また、新しい戦いが始まると思うが、これからも伝統ある明治の柔道を見せていただきたい。

現在、私は世田谷でジーンズショップを営んでおります。この不況の中、なかなか思うようにはいきませんが、この試合をみて今一度奮起したいと思いました。

十五回目の大学日本一、本当におめでとうございます。

六二年度　JEANS-SHOP　スリーエイト

自慢話がしたい



堀口武

待ちに待った六年ぶりの優勝おめでとう。

選手監督に「よくやってくれた。」と心から讃辞を贈りたい。

私は昭和十八年、専門部入学と同時に憧れの柔道部に入部した。毎日厳しい練習が続いていたが、戦争も日毎に厳しくなり先輩達も次々と出征し残った私達も勤労動員にかり出され賑やかだった道場も段々と淋しくなった。



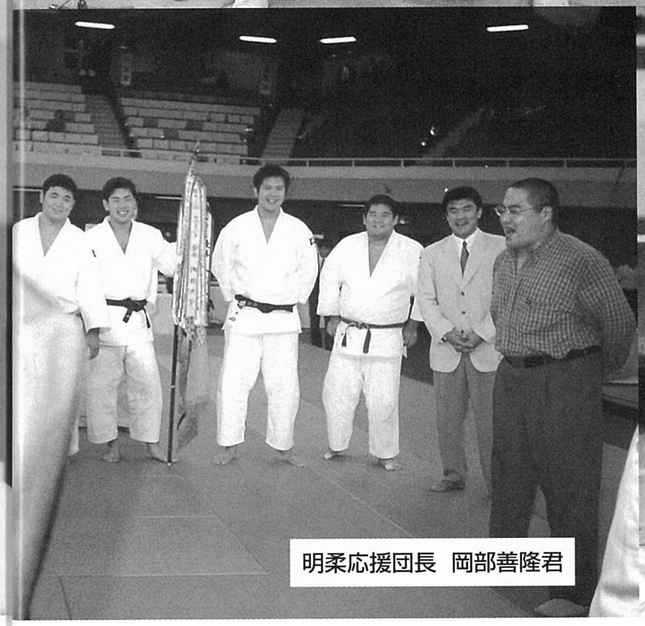
写真提供「近代柔道」



思わず笑み



思わず涙



明柔応援団長　岡部善隆君



動く監督、静まる助監督

私も二十年四月には久留米陸軍士官学校に応召され少しばかりの軍隊生活も味わった。その後二十二年復学し、早速懐かしい地下道場に行ったが目にしたものはボロ口になった畳と埃にまみれた無惨な道場だった。

当時は東京も廃墟の街と化し、世の中も荒んでおり食糧難、住宅難の苦しい時代だった。

そんな中で部員も一人二人と復学して来て自然と道場に集まるようになった。そして話題は何時も柔道復活の話ばかりだったが、物不足に加えてＧ．Ｈ．Ｑのパージ中で部活動は禁止されており、柔道復活の夢は程遠く厳しい状況にあった。それでも柔道への情熱は断ち難く、先輩達のご支援を戴き乍ら古賀先輩を中心として「ジャパニーズレスリング」と銘打って柔道クラブを発足する運びとなった。

当初は白帯の初心者も含め二十名程で古畳に水を撒き乍ら練習を再会したが柔道が出来る喜びは感無量であった。そして二十四年には先輩達のご盡力で画期的な広島、九州に遠征もし、こうして先輩と学生が一丸となって柔道の復活と選手の強化に頑張って来た。

その後二十六年に漸く学校柔道が復活し、我が明大が破竹の三年連続優勝の偉業を成し遂げる事が出来たのも苦しかった当時の苦労が実を結び優勝の原動力になっているものと確信している。以来優勝も度々重ね常に上位の成績を保ってはいたが、ここ暫く優勝の文字も遠く停滞気味で憂慮していたが、今度の優勝で長かったトンネルから抜け出しモヤモヤしていた気持ちも一ぺんに晴らす事が出来てこんな嬉しい事はない。この日をどんなに待ち望んでいたことか。選手達に「よくやった有り難う。」と重ねてお礼が言いたい。

それにしても戦後柔道復活に共に努力し苦労してきた多くの先輩や同僚が他界され、忘れ得ぬ想い出が一ぱいあって淋しい限りであるが、今度の栄冠をこれら亡き方々とも分かち合いたいと思う。

私のように地方に居る者は直接選手の試合を見る機会は少なく、試合の度にテレビにかじりつき一喜一憂し、また翌日は選手の活躍した新聞記事を何度も繰り返し読んでは感慨に耽っている。

今度の優勝で多くの方々から「おめでとう」といわれる度に自分のこと以上に嬉しく、鼻を高くして柔道部の自慢話に花を咲かせている此の頃である。

どうか選手の皆さん「努力に勝る良薬はない」と思う。これからも一層精進努力して明大柔道部の歴史と伝統を守り続けてＯＢ達が何時も自慢話の出来るよう頑張ってほしいと願うものである。

二十五年度　岐阜県糸貫町

思い出（第七回大会）　甲斐福男

十五回目の優勝おめでとうございます。

六年ぶりとのことですが、我々の時代と違って現在は少数精鋭によるチームであり合理的な教育と練習は部長、師範、監督、諸先輩方のご指導の賜だと思います。

良い伝統は永遠に引続かれますようお願い致します。「第七回大会全日本学生柔道大会（昭和三十三年七月六日（千駄谷東京体育館）明治は二回戦から出場し、中央大に六―零、二回戦は慶応大に五―零、準決勝は関西大に四―一、決勝は天理大に一―一となって代表戦となりました。代表戦は徳山選手をだすように見せ、また一方では曽根先輩が仕方がない倒れるまでやれと神永君に叱咤激励していたのが印象に残っています。神永君は春に痛めた右膝が悪化して再三試合を中断するような状態でした。相手は又、同じ古賀との対戦となり二分すぎ古賀二度目の左大外刈を神永君は左足を支えとして、体重を浴びせるようにして返して一本、神永選手の大殊勲で明大の二連勝をもたらした一戦でした。その時の柔道新聞は、それにしても神永の地力は学生柔道界で群を抜いている、準決勝で業師岩田（関大）との一戦で見事な横捨身を審判は技有りとしたが完全に一本であった。体力に加えて内股、体落、大外、大内、横捨身と多彩な技、寝ても自信をもち圧倒的に強いと書いていました。まったくその通りだと思います。本日は四十年前のことを思い出しながら簡単ですが思い出のページと致します。

※神永昭夫君は平成五年三月二十一日、直腸ガンのため死去、享年五十六歳

（財）全日本柔道連盟専務理事、新日本製鐵株式会社在職中、講道館九段であった。

三三年度　西宮市在

私も頑張っています



稲田寿郎

先づは優勝おめでとうございます。吉田監督の積極的姿勢も流石ですがそれに応えることが出来た選手諸君も見事の一言に尽きると思います。

重松・吉田と続く若手の優能な指導者が近代柔道への対応を可能にし唯一ＯＢと学生の気持ちが一つになれる団体戦の最高峰である全日本学生柔道優勝大会をものにすることが出来たと思っているので改めて両氏に敬意を評したいと思います。

さて私の現状ですがＪＲＡ本部の総合安全部と云う部署の安全対策一課長の任に有り、競馬場・ウインズにおける交通対策・防災対策・環境対策が主な内容でございます。またＪＲＡには明大柔道部出身の現役選手が数多くいてそれぞれのセクションでがんばっており彼らが仕事と柔道を両立出来る環境を整えて行くのが先輩としての役割だと思っているので微力ではありますが尽力させて頂きたいと思っています。

五十年　ＪＲＡ



優勝報告　姿先生ご夫婦を囲んで（東邦病院屋上）



OBも一緒に

喜こびに寄せて



松岡義隆

明治大学柔道部という大きな木の根っこにつながって生きていると常に自負している私にとって、その大木での色々の出来事は、大きく心にひびきます。今度の優勝という快挙は、現役の学生はもちろんのこと、多くのOBの方々の喜びがひしひしと伝わってきます。特にいま快方に向かって努力されておられる姿先生のお喜びはいかほどかと思えば涙が出るほどです。なにより親孝行だと思います。私のその大木での年代の位置は、今は亡き曽根先輩と神永君の丁度中間、葉山先生が監督で、小田先生が合宿所の生活指導をされておられました。なつかしき人達ばかりで、人生の大半に明大柔道部の歴史の深さが重くのしかかります。現在、熊本は八代の片田舎でからだは特に丈夫で元気にやっております。六十五歳になって居りますが、今度の優勝という快挙にあやかって数字を逆にして五十六才にもどし、今からの十年間という一節を計画的に、いきいきとして頑張っていきたいと思います。

三十年度　株式会社　ゼロワン・八代市在

あの頃の事など



山本裕洋

全日本学生柔道優勝大会での六年振りの優勝おめでとうございます。当時の自分達も「全日本学生大会での優勝！」を合い言葉に毎日の練習に励んだものです。私が入学した当時（昭和三十八年）は黄金時代で、明大が優勝する事は当然の雰囲気がOBや選手の間にありました。昭和三十九年（関先輩が主将）は圧勝の四年連続優勝を成し遂げ、部員の一人として美酒に酔う事ができました。昭和四十年（上野先輩が主将）から私も選手として出場しましたが残念ながら決勝で敗れたのです。反省会は準優勝したにもかかわらず一回戦で負けたかの様に静かなものでした。昭和四十一年（私が主将）は準々決勝で日大に敗れました。私が勝たなければならなかったのですが気負って掛けた技を返されポイントを取られてしまいました。あせって攻撃したものの挽回する事が出来ませんでした。私は学生選手権大会では無差別級で二年連続優勝しましたが、卒業後、OB会等で先輩方から「君は個人戦は強かったが、団体戦は弱かったなあ」と云われる事が一番苦痛です。今大会の優勝は明大の健在感をアピールした意義深いものです。吉田監督のもと明大柔道部の更なる発展を期待します。

四十年度　旭化成工業（株）

「祝」王座奪回と建学精神



押切義春

今回の優勝で大学日本一の栄冠は十五回目という最多記録の歴史を飾り誠にご同慶の至りである。この感激は柔道部にとどまらず全国の三十六万名に及ぶ明大校友をはじめ内外の明大ファンに大きな喜びと熱い感動をもたらす快挙となった。雌伏五年、栄光の歴史と伝統を知る大勢の方から明大復活への期待が根強くこの日のくるのを待望されてきたと云えよう。明大復活論にはまず建学精神をバックボーンに優れた技と旺盛な闘争心それに加え柔道美学の伝承があげられる。明大の建学精神の原点は新しい時代へ向かって「自由と人権」を尊重する人材の育成にあった　これを更に述べるならば（1）外国へ通用する豊かな視野と国際感覚（2）時代の変革に対応出来る能力　（3）人間尊重の哲学とりわけ人権擁護に関する明大の学術研究は世界的に高く評価されてきた。特に弱者へのいたわり、思いやりを共有し敗者の論理を理解することは現代社会では重要な人間教育になっている。私の敬愛する神永昭夫氏が生前「最近の試合では礼法を無視する者が増加する風潮にある押切先輩も指導者としてどのようにお考えですか」と深刻に嘆かれていたことがあった。これはのちに彼が全柔道専務理事の際、礼法の徹底化を推進したことで頷けよう。昨年の資料によると外国と比較し日本の柔道人口は著じるしい減少傾向にある。このような時代背景のもとで柔道の素晴らしさ、柔道の魅力と心が躍る感動をアピールできる明大柔道の役割と期待は実に大きい。勝利の美酒はおおいに呑んで酔うべきだ。しかしながらその一方で、明大の建学精神は何かを問い、敗者の論理を学び、敗者の心理を洞察する態度が学生柔道界の真の王者としてさらに大きく逞しく成長するであろう。

二十九年度　講道館国際部審議員

「快挙」に寄せて



坂本羯正

誠におめでとうございます、マスコミ予想では東海、中央それに昨年の優勝校日大とありました。期待は当然しつつも、率直にいってむずかしいか・・・の気持ちもありました。十月五日(月)朝、朝刊を平常どおり政治、経済、社会と目を通し、最後にスポーツ面に目をやったところ、そこに“明大六年ぶり、十五回目の優勝”という大見出しがあったのです。瞬間目をこすり、活字を疑うばかりの興奮につつまれました。よくぞやってくれた。「負けたくない気持ちは人一倍」の吉田監督統率のもとに「一致団結」した学生諸君が見事に大輪の花を咲かせてくれたのだ。本当にうれしかった。地方に居るものにとってはこの度のような「身体」の芯から湧きでる喜びに接することは稀なのです。「石(意志)の上にも三年」の格言がありますが、吉田君は監督就任二年目であります。まさに「前途洋々」の感‐。そしてその彼に仕事をさせた明柔会の存在もまた、我々の大きな誇りであります。若手、古手を交える現場のOBサポート集団、また、部の運営にたゆまず尽力されている事務局、委員会の皆様、改めて「お目出とうございます」を申し上げます。学生諸君は元監督、故神永昭夫先生の「得意淡然、失意泰然」の信念を継承し更なる努力、精進を肝に命じ頑張って下さい。「ピンチをチャンスに!」これぞ、まさしく明柔スピリッツ、学生諸君、この貴重な体験を、卒業後の厳しい社会の荒波に生かされん事を、・・・・・。

四四年度　熊本県警

人生の糧に



國安教善

十五回目の優勝おめでとうございます。

十月三、四日は秋田で柔道大会があり、応援出来なく誠に残念でなりません。吉田新監督、選手の皆さんの勇姿、さぞかしだったと思われます。

また、当秋田出身の奥村君も超重量級の選手の多い中、軽重量というハンデを克服し、随所で活躍とのこと、全くもっておめでとう。

私の時代、昭和四十五年決勝で天理大に惜敗したことが昨日のように思い出されます。伝統ある明大柔道部、優勝出来なければ準優勝でもボロクソの時代でした。その頃は毎年六月が大会の時期で、平素の五分刈り頭も優勝出来なければ四年生は、スポーツ刈りにするのにOBの目を気にする時代でした。中でも関先輩の視線が一番気になったのは私一人ではなかったはずです。

当時は、監督は曽根先生から神永先生に引き継がれた時代でもあり、その時期に柔道だけでなく人生訓まで学べたことは、人生の中でも大変幸運だったと今もつくづく感じております。

学生諸君にはどうか良い意味での「柔道馬鹿」であってほしいし、人生は長いわけですから、吉田監督、他コーチ、OBの指導の下、全人格的なものも修業し、立派な柔道人、社会人となるべく努力をしてもらいたいと思います。

なにはともあれ、優勝おめでとう。

来年もまた日本武道館で「オーオー明治」を唄いたいものです。

四十五年度　(株)男鹿興業社

優勝に寄せて



神永正夫

六年ぶりの王座奪回、真におめでとうございます。

ゴルフの帰り、車の中で朗報を知り、思わず私は「取るなら取ってみろ　優勝旗渡しゃせぬ　桜の木陰で鍛えたる　こちゃえこちゃえ　こちゃ明大の柔道部にゃ骨がある」と、大きな声で部歌を歌っていました。応援に行かれたOBの方々も、さぞかし感激しながら、会場で部歌を歌ったことでしょう。申すまでもなく、この夜の酒のうまさは殊のほか格別でした。今回の優勝は通算最多の十五回目、優勝に花を添えた訳ですが、ここ数年吉田監督の熱血溢れる指導のもとに、部員一同が血のにじむ様な猛練習に耐えた結果が、大きな自信につながったのではないかと思います。吉田監督の運の強さと指導力、そして選手諸君の大奮闘に、心から拍手を送ります。思えば今から三十七年前、私も選手の一人として出場し三年ぶりに優勝した昭和三十六年、今は亡き田中章雄主将を中心に対戦する相手を想定し、その相手の長所・短所を徹底的に研究し猛練習にあけくれ、十回目の大学日本一になる事が出来ました。当時は優勝する事が義務付けられており、そのプレッシャーたるや大変なものでした。今回の優勝は、当時の優勝を彷彿しているような気がしてなりません。明大柔道部の黄金時代を築くためには、連覇することです。実力伯仲の戦国時代の今日、一年だけの優勝では真の王者ではありません。OBの一人として吉田監督のもとに、部員一同の益々の精進、御活躍を祈ってやみません。

昭和三十六年度　旭化成工業(株)

思い出のあの頃

黒住大和

全日本学生柔道優勝大会、優勝おめでとう御座います。今年の大会評判は、天理大学・東海大学の前評判が高かったので、心配しましたが、選手・監督・指導者の皆様方のご活躍で優勝されたこと、お喜び申し上げます。私が大会に選手として出場した、第八回大会を思い出しました。試合の前日牛乳を飲んだ後夏蜜柑を食べたために、腹痛と下痢で苦しく、病院で治療を受けたのですが、下痢は止まらず、一日中食事が取れない状態で試合に出ることになったのです。決勝戦で、天理大学と対戦した時には、体調は一層悪く、私のところで勝たねばならないところ引き分けとなりました。それで代表戦で敗れ、連続優勝をのがし、後々まで悔しい思いをしました。今でも忘れられない思い出です。この様なことがない様に選手の皆様は体調に充分気をつけて下さい。これからのご活躍を祈っております。

三四年度　栃木県警

「乾坤一擲」　－明大柔道部魂－



松嶋進治

「運命をかけて、のるか、そるかの大勝負をする事」－徹底的に叩き込まれた“明大柔道部魂”の一つである。

明大柔道部卒業後七年、そして明大柔道部創部以来九十余年、今、この世に明大柔道部部員として選ばれた男達が、また運命をかけての大勝負を勝ち抜き、日本一に輝いた。時が流れ、どんなに時代が変わろうとも“明大柔道部の魂の炎”は消える事なく、脈々とそして力強く燃え続けていたのである。

熱くなる目頭を押さえて聞いた六年振り、十五回目の優勝。特級品の喜びである。何故なら七年前に共に汗を流し、一緒に優勝の喜びを分かち合った男達が、監督、助監督として大輪の花を咲かせたのだから。しかし、“美しい”と絶賛される花になる為には、どっしりと根を張る為の土壌、成長に不可欠な肥やし生命の源である水、そして燦燦と照りつける太陽。そのどれか一つでも欠けてはならない。そしてその花びらにはなれない地味な連中が、運命をかけて一生懸命頑張って初めて輝きを増すのであろう。

明治の顔として命をかけて走り続けた者、ただひたすら母校愛だけを胸に、陰で皆を支え続けた者。その全ての者達が、“乾坤一擲”‐大舞台での、大勝負に勝ったのである。そして、見事な“華”となり、我々の心の中に生涯消える事のない思い出と感動をまた一つ残してくれた。本当におめでとう。そして心より、こう伝えたい。「ありがとう。」と。

平成三年度　西松建設株式会社

優勝おめでとうございます。



井上泰夫

吉田監督、百瀬先生、小林先生、コーチの方々ならびに事務局の皆様方、心よりお喜びを申しあげます。私の学生時代、四年間は一度も優勝の経験はありませんでした。さぞ、学生諸君は感激したと思います。優勝という快挙に、あの狭い道場で、あの少ない部員でよくぞと感心しております。これは、日頃からの監督及び先生方の指導と、学生諸君に稽古の頑ばり、そしてOB達が築きあげた伝統の力だと思います。私は、そんな明治大学柔道部を誇りに思っています。学生諸君は今後も、勉学と柔道を一生懸命にやって、悔いのない学生生活を送って下さい。明治大学柔道部に入部を希望する学生が、一人でも多く入学できます様、大学側の柔軟な態度を私は望んでいます。幹事、事務局の皆様、難題が多いと思いますが頑ばって下さい。いつも応援しています。

昭和五十三年度　たてかわ接骨院

よみがえる往時



徳永三幸

優勝おめでとうございます。

朝刊のスポーツ欄を開いた途端、日本学生柔道明大優勝の文字が目に飛び込んできた。優勝が決定した瞬間の関係者の歓喜溢れる状況が目に浮かびます。六年振りの優勝ということでその喜びも一入の事と思います。優勝できなかったときの悔しさ、無念さを糧に監督、選手が一丸となって努力された結果でしょう。私にとって、この思いは昭和三十二年の優勝の瞬間につながって行きました。昭和二十七年第一回大会で明大が優勝し(曽根主将)、二十八年(末木主将)、二十九年(山尾主将)と三連覇し学生柔道界の王者として四連覇、五連覇と優勝しつづけるものと誰もが確信し、選手も王座を守り続けなければ成らないと稽古に励んでいましたが、三十年誰もが予想だにしなかった敗北を喫し、更に三十一年も優勝旗に見放されてしまいました。幸運にも、三十二年は下級生にも強烈な選手候補が沢山いまして、三年に神永昭夫、徳山操、甲斐福男、比嘉良幸君など、二年に篠原一雄、小林健児、大橋武彦、黒住大和君など、一年に重松征成、山口友孝君などと人材にも恵まれても居り、第二期黄金時代の幕開けでした。しかし、当時は一学年の入部数が三十～四十人も居り四年まで残る選手も、手元の名簿をみると、三十二年が二十三名、三十三年が二十七名、三十四年が二十六名、三十五年が十八名で多いときは百十名以上が稽古しており、部員数も日大や天理大を圧倒していました。先般、現在の部員数を聞いたところ四年から一年までそれぞれ八名、三名、九名、十四名、合計たったの三十四名と言う。たったの三十四名で優勝を勝ち取ることが出来たのは単に少数精鋭主義で片づけられるものでなく、吉田監督の始め学生諸君が、私たちが想像もつかない位の努力を続けた結果だと感心したり驚いてばかりで、全く信じられないと言ったかんじです。そしてその努力を支えていただいた姿師範、百瀬部長はじめ諸先輩に心から感謝し心からお祝い申し上げます。明大柔道部の益々の発展を祈りバンザイ

近況、今年四月、生まれ故郷の熊本県鏡町に帰りましたところ、所轄警察署長から少年柔道の指導を要請され、五月より三十数年振りに柔道衣を着ました、新しい柔道衣の匂いと感触に学生時代を思い出しながら張り切っています。要請の蔭には、どうやら坂本羯正君の私の健康を思っての策略？が有ったようです。ここでも感謝。諸兄のご健康をお祈りいたします。

三十二年度　熊本県八代市在

優勝の歌



河田恵吾

「取るなら、取ってみよ、優勝旗・・・」六年ぶりの優勝の歌が武道館に響き渡りました。十五回目の優勝、心より、おめでとうの言葉を贈ります。学生時代は、この優勝の歌を一度も歌うことが、できませんでした。その当時から始まった長いブランクを越えて、十九年ぶりの優勝の第四十回大会、連覇の四十一回大会、そして今回の四十七回大会と、すべて、目の前で、この優勝の瞬間を見、優勝の歌を歌うことができました。今回も、試合前日の金曜日まで、上京をためらっておりましたが、急に仕事の都合が入り、上京することができ、優勝を見届けることが出来ました。やはり、こういうのは、実際に目の前で見ると感激が違いますね。私も四十歳になり、立派な中年で、毎日仕事や生活に追われ、感動するということから遠ざかってしまい、何となく日々を送っているなかで、久し振りに感動に触れ、明治魂を感じた一日でした。この感動をプレゼントしてくれた、学生諸君、監督、それを支える人たちに改めて、敬意を表します。

さて、今回の優勝を振り返ると、本当に不思議な位の勝ち方でした。準準決勝の日大戦、準決勝の中大戦、決勝の国士館戦のどれもが、圧勝という勝ち方で、すべて、四～五人目で勝負が決まっていました。今までに、こんな勝ち方があったでしょうか。日大、中大共、前評判は、明治より高かったように聞いています。昨年は、東京大会全日本共、日大に破れ、今年は、東京大会では中大に破れましたが、見事に雪辱してくれました。決勝の国士館の時には、応援団の誰もが、明治の優勝を確信しておりました。本当に胸の透くような勝ち方とは、こういうものでしょう。やはり、日頃の稽古の成果だと思います。祝勝会で、どなたかが、吉田監督にはツキがあると言われました。又、吉田監督自身も自らの学生時代の優勝のときに、故神永先生から、連覇してこそ本物だと言われた事を引用して、来年への決意を語っておられましたが、この吉田監督のツキと決意で、是非共連覇を続けて欲しいと思います。私達もOBとして、出来るだけの協力をしていきたいと思います。

昭和五十四年度　河田漢法薬局(株)　松坂市

「志不立如無舵」

米田　守

我が明大柔道部、六年振りの優勝お目出とうございます。当日の試合の結果はすぐ耳に入りましたが、田舎に居る者だから映像の方は、数日遅れの十月十日でしたが当日は家族中で楽しく大声を上げながら応援しました。たまには、家族で大声を上げるのも良いものですね。大方の予想は一に東海二に天理三に中央・・・・というのが戦前予想であったと思いますが、ものの見事に各大学を打ち破り優勝、それも決勝戦の国士館大などは力の差を見せつけてのものですから立派な王者の戦いで、すばらしいのです。また一試合一試合の内容は、他の先輩諸兄が書いてくれると思いますので控えます。

テレビの画面からですが、吉田監督、秀島コーチや猿渡主将以下学生の極上の笑顔が何とも頼もしく見受けられました。今現代風の若者達が、何かを求め成し遂げようと全力を出し切り一丸となっている姿を見せ付けられ何か私達も力付けられる思いがしたのは私一人でしょうか。今日の優勝は、今迄の優勝と少々趣が異なる思いがします。他大学にはまず例を見ない。現役の若いコーチングスタッフによって成されたからです。今の世の中「今どきの若い者は、すぐキレる、根気が無い、連帯意識が無い」ということの難しい多個性の一団をまさに若い指導者達が纏め上げ優勝という最高の結果を導き出したのですから素晴らしいことです。我が明大柔道部には、若者に対する世間の見方にまさに逆流する反骨の力が脈々と流れあることを再認識させていただきました。「執念は成績の比例定数」とは良く言ったもので、まさに吉田監督の試合そのものです。本当に喜びをありがとうございました。私達が学生時代は団体としてはこれと言った皆様に誇れる成績がなく今現在に至っておりますが、優勝を経験された年代の方の話を聞いていると悔しいですがみなさん自信にに満ちており羨ましい限りです。今回の優勝を学生諸君には一生大切な宝と思い、この感激と自信を持って将来に向かって進んで欲しいと思います。

思い返して見ますと、私達が在学中の時は何と言っても十九年間の苦闘の時代の前期です。でもこの時は、私達学生も辛い思いをしましたが姿先生他先輩諸氏の方も辛い苦しい思いをされたと思います。一度でも優勝というものを味わいたかったが他大学は大型化が進み力を付けてくるが我が大学は入学難等により部員が少なくなり段々と差が開くばかりでした。この時の辛くて悔しい思いが社会人になり思いのほか自分自身の生活にバネになっている様な気がします。

しかしこの時には同期生が私を含め五名と少なく苦しかったのですがそのお陰で有名な先生先輩方に思う存分十二分に投げて頂き、細い身体の中に素晴らしい技の数々をたたき込んでもらいました。その技を実際使えと言われれば私ごときの技量では到底無理です。でも「こういう技はこの人がこう入っていたよ」と少しは話せることが出来るくらいは詰込みました。これが低迷期に練習してきた見返りの様な気がします。これも明大柔道部で得た誇れる貴重な私の宝物です。

ところで近況ですが家族三名は相変わらず、当人米田は病気もせず元気で現役時代と変わらぬ中量級の細身で細々と接骨業に励んでおります。最近我家の近所に整形外科が二院開業し悪戦苦闘しております。しかしながら骨折とか脱臼または交通事故の患者はどういう訳かそちらの方から来院してくれておりますまさに私の考えの「志不立如無舵」です。柔道の方は大先輩佐藤治先輩がやっている柔道クラブで微力ながらお手伝いさせてもらっています。先輩の指導良ろしく良い子供達が育っており楽しみです。将来明治にと言う子供が出る事を期待しています。妻一名は私の最大の片腕で居なければ仕事も進まず気も安すまらないので大切にしております。これからもよろしくと言うところです。娘一名は本年より高校生、小学生の頃柔道を志ましたが途中下車で今はどういう風の吹き廻しかハンドボールと勉強に頑張っています。身長百七十センチどうなることか。以上が近況です又機会があれば書きたいと思います。最後になりましたが姿先生はじめ関係各位のご尽力に心から敬意とお祝い申し上げます。又学生諸君は連覇に向け練習に励み又素晴らしい宝物を自分達の物にして下さい。本当にありがとうございました。

五十五年度　岡山市在　米田接骨院

明柔優勝記念号

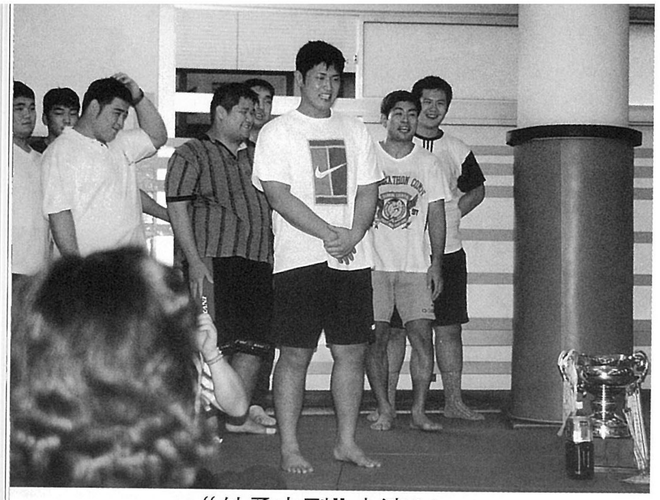


竹園　隆浩

柔道界の学生王者を決める全日本学生優勝大会の6年ぶりの制覇の報に、胸が躍りました。最多の優勝記録の更新。OBの一人として、指導に当たってこられた諸先生方、伝統の猛稽古に耐えてきた学生諸君、それに活動を温かく見守って下さった大学関係者に心から敬意を払う次第です。体重別の個人戦も重要な大会ではありますが、団体戦の学生日本一は、学校同士の力がそのまま反映される大会です。せまい道場、少ない部員数で勝ち取った栄冠は、体育系の大学に傾きつつある学生柔道界の現状に、必ず新しい風を吹かせると信じます。卒業後、朝日新聞社に入社し、現場でスポーツ取材をする立場になって、学生時代の経験の重要さが改めて感じられます。諸先生、先輩、同じ学年同士とのつき合い方。激しい稽古の中で培われた闘志、体力は社会に出て分かる、何ものにも勝る財産です。学生諸君には自信をもってもらいたいことがあります。それは明治の稽古は世界最高レベルを常に保っている、ということです。日本を代表し、世界で戦う先輩たちに直接指導してもらえる環境は、そうありません。設備的には他大学に比べて恵まれていないかも知れませんが、明治には肌で感じる「世界」が身近にあります。

今の日本の柔道界は低迷期です。国内の柔道人口の減少。国際大会での不振。ルールの不統一。様々な問題が起こっていますが、明治関係者は様々なところで柔道界を支えています。部の基本的な活動は、学生の大会での優勝を目指すものですが、明治の柔道部は「王者」として自分たちの試合の結果だけでなく、その枠を超えた意識を持ってもらいたいと望んでいます。講道館、全柔連、他大学関係者、高校や地方の指導者、海外の指導者など、多くの柔道に携わる人たちが、あなた方に注目していることを忘れないで下さい。そして、我々OBに改めて「明治魂」を思い起こさせてくれたことに感謝します。

六十年度　朝日新聞社



“外柔内剛”中濱クン



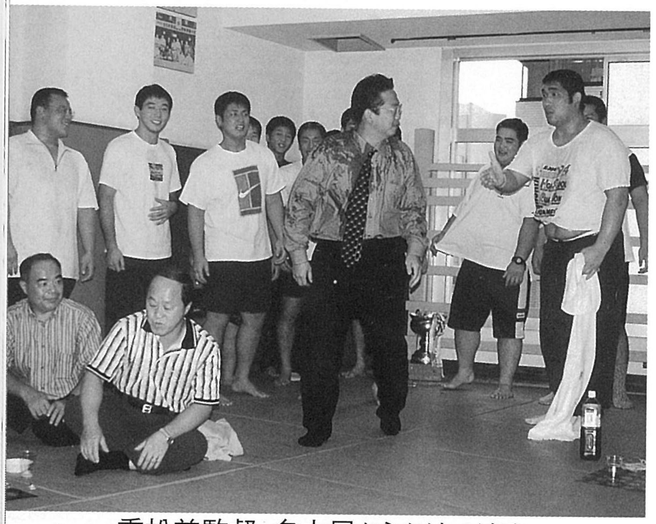
決勝戦ではゴメンナサイ　三木



父兄の皆様方



楽しい！



重松前監督、名古屋からかけつける

祝勝会

百瀬部長と優勝旗





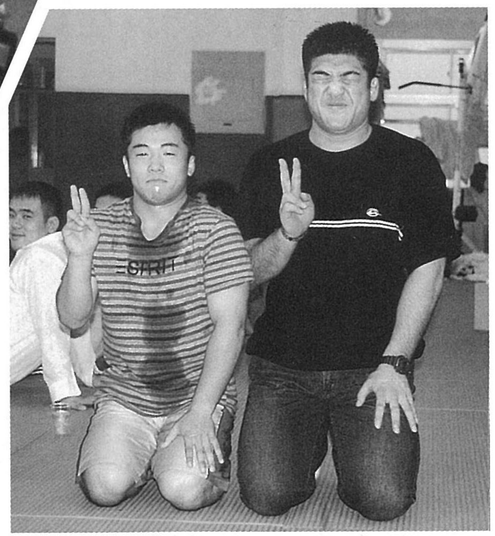
古いOBたち



うれしい！



若いOBたち



中村雄次郎 井上智和に勝つ（ただしビールで）！



飲めないグループ。ただし花岡、西野は別

優勝祝勝会
(於)12.2大学会館


会場風景


鏡開き


岡村明大理事長を囲んで


河原OBと関OB


S33年度のOB右から小川・宮下・福田・大輪

寺島商学部教授を前に緊張する商学部の部員





祝辞　戸沢充則学長

祝辞　岡村了一理事長


最年長OBの山口吉暉館山市市長


若手OBたち（右から）鉄谷・園田・中島・鈴木


S30年代のOBたち
（右から）谷藤・大輪・杉山・佐藤・丸山


講道学舎横地理事長と百瀬部長


助監督と押切OB

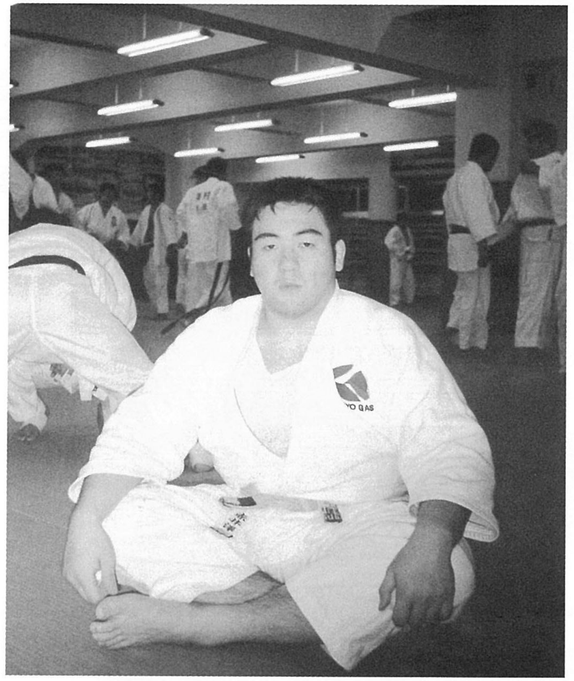

坂井OBと町山OB


S30年代のOB・畠田・大橋

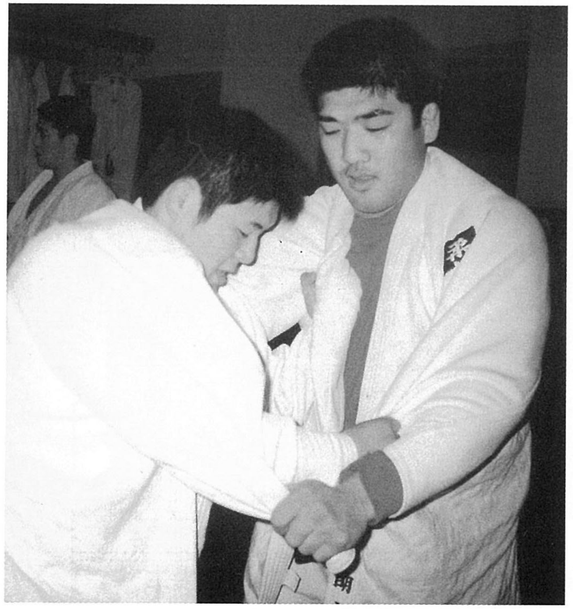


重松前監督と四年生

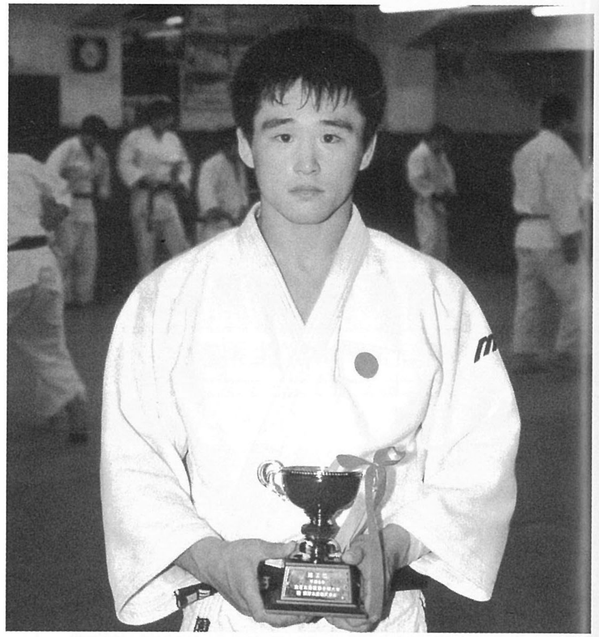
Coaching Staff



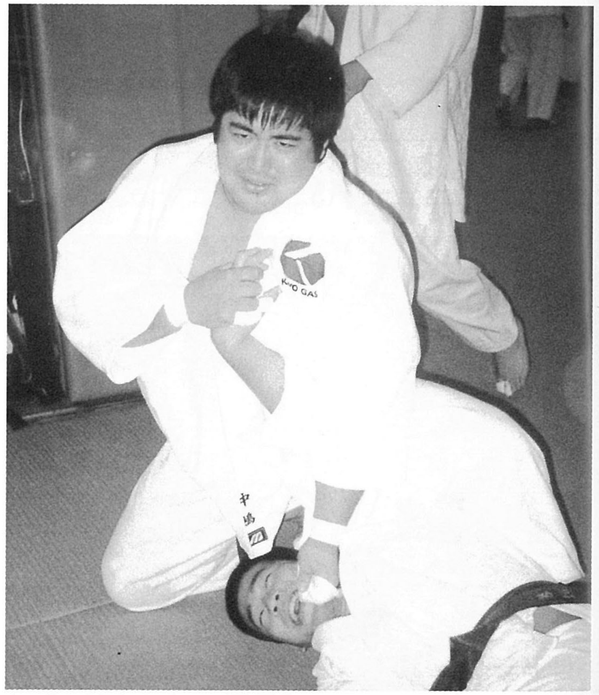
赤井沢 一晴　H8　京葉ガス(株)



井上 智和　H9　太平工業

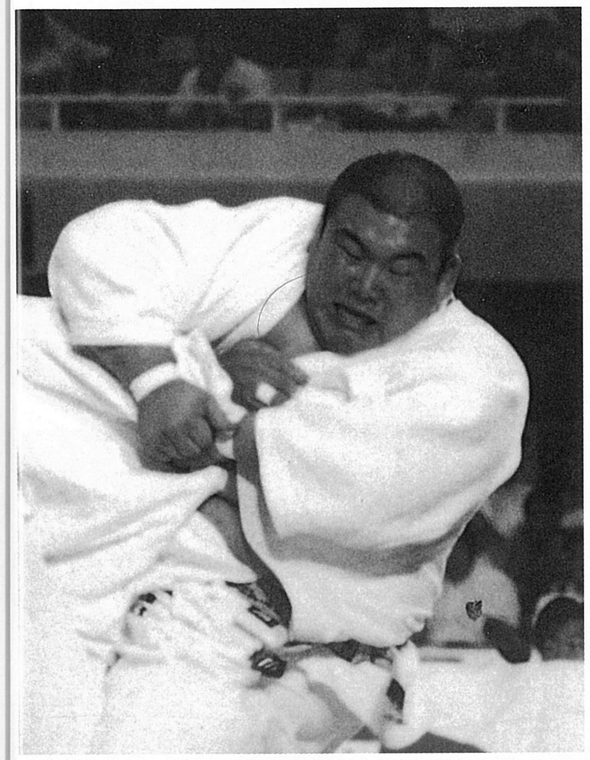


園田 隆二　H7　警視庁

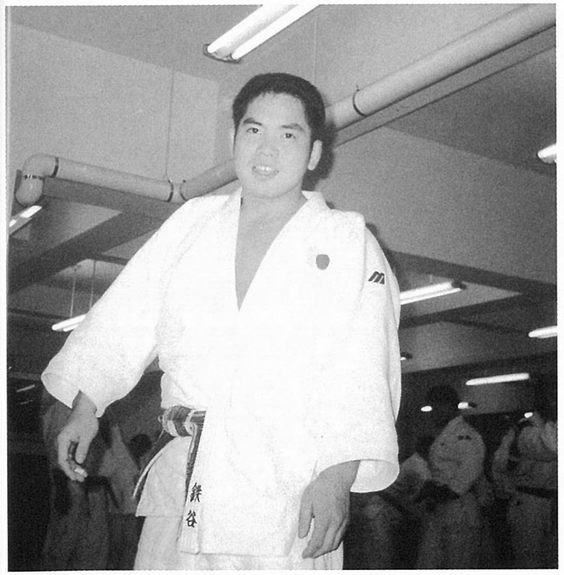


コーチ 中嶋 和也　H5　京葉ガス

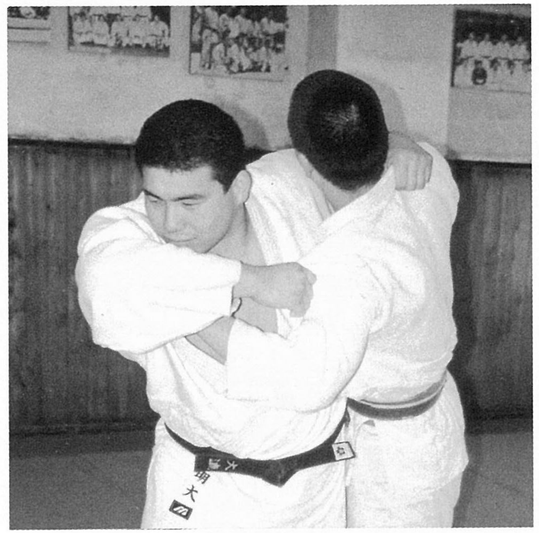
学生を鍛える若手OB達



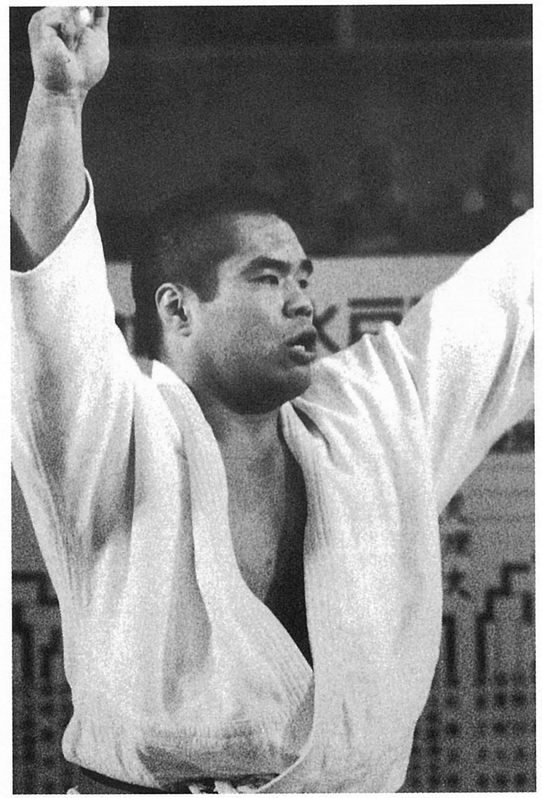
コーチ 佐々木 伸也　H5　JRA



鉄谷 竜三　H6　警視庁



コーチ 大瀧 賢司　H4　JRA



コーチ 松本 昌広　H5　JRA

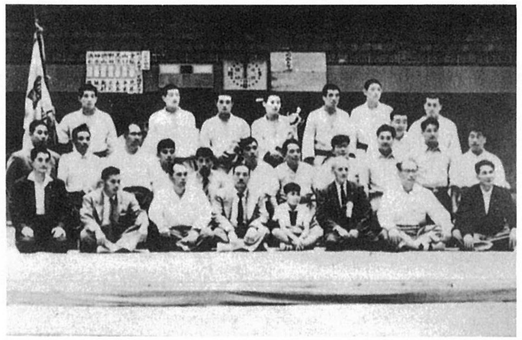
輝く歴史



優勝・第17回　全日本学生柔道優勝大会



優勝・第11回　全日本学生柔道優勝大会



優勝・第６回　全日本学生柔道優勝大会



優勝・第１回　全日本学生柔道優勝大会



優勝・第20回　全日本学生柔道優勝大会



優勝・第12回　全日本学生柔道優勝大会



優勝・第７回　全日本学生柔道優勝大会



優勝・第２回　全日本学生柔道優勝大会



優勝・第21回　全日本学生柔道優勝大会



優勝・第13回　全日本学生柔道優勝大会



優勝・第10回　全日本学生柔道優勝大会



優勝・第３回　全日本学生柔道優勝大会

良い年をお迎え下さい。
来年も頑張ります。 部員一同

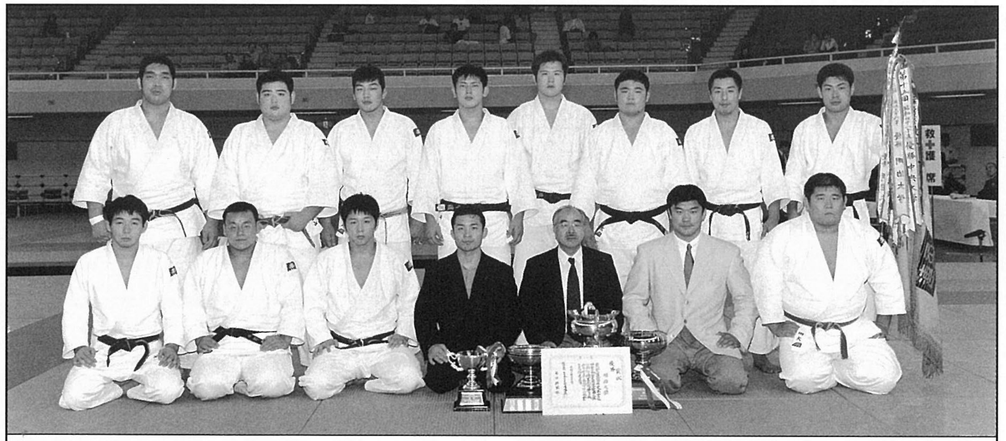




優勝・第40回　全日本学生柔道大会



優勝・第41回　全日本学生柔道大会



優勝・第47回　全日本学生柔道大会

高山感動大賞



第47回全日本学生優勝大会で優勝した明治大のポイントゲッター高山選手が受賞。
6戦5「一本」、1引き分けの活躍でした

「近代柔道から転載」

明治大はいかにも明治らしい勝負に厳しい”明治柔道”を見せ見事頂点に立った。優勝に貢献した選手は主将・猿渡琢海、吉永喜史といった4年生が挙げられるが、3年生の高山選手の働きは遜色ない。ないどころか、強敵中央大との一戦では勝利を確定した3勝目を挙げている。いわば殊勲甲の活躍だ。

「嬉しい。あの時は自分が勝てばチームの勝ちが決まるので何としても決めてやろうと思っていました」

明治は後ろ二人が二本負けしたので、高山が引き分けていたとしたら内容負けというきわどい勝負だった。

高校の後輩達が96年のインターハイで団体優勝したが、高山は「自分は学年が一年上でこれまで優勝には縁がなかった」

145kgの大きな体に負けない大きな目。優勝が決まった後は拳で横なぐりしながら男泣きした。

高校時代の恩師・鈴木寛人先生からは「決勝の前に『お前が勝って優勝しろ』と言われました。約束を守れることができて満足です」という。

姉弟は姉一人。この姉は高山選手より有名人かもしれない。アトランタ五輪女子ソフトボールナショナルチームのエース樹里さん(日体大4年)。

シドニー五輪への出場を決めている姉に「俺もやったぞー」と言いたい」とにっこり。

「自分は他人から見るとボーッとしているように見えるらしいんです。でも案外表に出ないところでいろいろと考えているんです」

左からフェイントをかけて右の袖釣り込み腰にいくなんていうのはボーッとしていたらできない技だ。納得!!

高校時代から合宿生活でホームシックなどこれまで「全然なかった」とか。「休みの時は買い物に行ったり釣りに行くこともあります。パスなんか好きですね。それ以外は寝ているかな」

将来の目標は「世界選手権に出たい」。そのためにも「組み手をもっとうまく、技と技の連携をもっと細かくやれるようにしないと……」

高山選手は吉田監督のファンだった。「監督が団体優勝した時(第40回大会)、すごく憧れました。自分もああいう選手になりたいと思ったんです。それで大学は明治を選びました」

「吉田監督からは『技を掛けるのが遅いのでもっと早くしろ』と言われている」という。そうしたアドバイスが今大会では「少しできた」

「現役を終わったら柔整復師になりたい」という高山選手。柔道も人生もしっかり考えている、と見た。



大会を運営して

東京学生柔道連盟副理事長　山内鉄生

始めに全国大学の頂点に登り詰めた部員諸君に心からお祝い申し上げます。また、それを支える現場スタッフ並びに明柔会の皆様に声を大にして「おめでとう御座います!」を申し上げます。私は、東京学生柔道連盟に携わらせて頂きまして本大会の実行委員長を務めました。五十五年度卒の藤原敬生君は当連盟の事務局長として私と共に「少しでも大学柔道に恩返しを」合い言葉に、この一年間、右も左も分からぬままに連盟の先生方にご指導を仰ぎながら何とか凌いで参りました。ここで特に再認識したのは、明大柔道部の伝統の大きさでした。柔道の実績も知識も薄い私を皆さんが厚く・そして熱く取りたてて下さいます。それは《明大柔道部》の名に他ならず、その伝統を優勝でまた一つ高く築いた功績は対外的にもさることながら明柔会内に於いても、正に価値有る意義深い一勝だと思います。東京学生柔道連盟会長　野田　亘　先生が「柔道離れは、柔道自体よりも柔道人に魅力無し」とおっしゃいました。思い当たる節は多々有りますが、しかし明柔会には魅力有る人材がいるが故に、学生が挙って明大柔道部を目指すのだと思います。その学生達(現柔道部員)は、強さだけでなく優勝の2文字に恥じない立派な人格を形成し明柔会の伝統を守り、また築いてもらいたいと痛感致します。さて、皆さんは明大チームに匹敵する優秀なチームが有ることをご存じですか?私も携わって初めて気が付きました、東京学生柔道連盟の学生委員達です。それは国士舘大学の千代谷正和君を委員長に　法政(佐々木・早稲田(前川)・日体(三浦)・東洋(川口)・拓殖(中村)・順天(前川)の全7名で編成されています。何が優秀なのか?それは下済みの仕事、言わば「畳敷き」を黙々とこなすことです。準備は大会の一ヶ月半前から始まり会場の確保・大会要項の作製・発送・組み合わせ抽選・企業広告の取りまとめ等々ここに揚げた百倍以上の仕事量をたった7名でこなし、2~3日前には仮眠を取るのがやっとの状態で当日を迎え大会に望みます。これを5大会開催するのです。うまく行って当たり前、ご褒美は会長以下理解して下さる先生方から戴く労いの言葉のみで優勝旗もカップも賞状すら有りません。我が明大チームが優勝祝賀会の真っ最中、彼らは武道館の会場をせっせと手際良く撤収作業に励んで居りました。そんな学柔連チームにも失敗は数多く有りますが私の目からすると爽やかで、生き生きとしています。そして礼儀正しく事務能力にも優れているわけですから就職しても即戦力と成るでしょう。役割分担が有るわけですから、明大チームにこれをしろとは申しません(が)「支え」が有り「優勝」が有ることを十二分に理解しない限り真の優勝は無く、学生委員達も報われる事は無いと私は確信します。今　明大チームは連覇をすることが目標だと思います。優勝を宿命付けられた明大チームは、厳しい練習に耐え柔道のみ成らず生活意識の上でも連覇を続けて頂きたいと思います。

五十三年度　山内機器(株)



「優勝おめでとう」

奨学金委員長　杉原　構

学生諸君！「優勝おめでとう」。6年ぶりのプレゼントをありがとう。

一回戦から決勝戦までまさに「ブッチギリ」の強さで、安心して観戦することが出来ました。

吉田監督やスタッフ、そして学生諸君の日頃の熱心な稽古の成果が、いちばん良い状態で発揮された結果でした。

まさに「強豪明治」の復活です。

明柔会の皆様とともに奨学金制度の充実をめざしてまいりましたが、こちらの方も良い結果が出るようになってきました。

貴重な奨学金を生かして、新入生のスカウト活動や学生の育成に安心して取り組むことが出来るようになってきました。

あらためて明柔会の皆様のご支援の賜物と感謝いたします。

不景気風の吹くなかを今年度も多額の奨学金をお振り込み頂いた篤志会員の皆様をはじめ明柔会の皆様には、引き続き奨学金事業に対しましてご理解とご協力をいただけるようお願い申し上げます。

学生諸君が我々に、来年もまた「おいしい酒」を飲ませてくれることを祈って。

三七年度　東京都在
住宅ローンセンター（株）



ひたむきな心

副委員長　細川　隆夫

皆さん優勝おめでとうございます。

勝利の美酒の味は格別です。

優勝を機会にひたむきに精進するという良き伝統を守り続けるよう頑張ってください。かの文豪ゲーテは「大切な事は大志を抱き、その成し遂げる技能と忍耐をもつことである。その他はいずれも重要ではない。」と言っています。

良き後輩に恵まれて本当にいい気分です。

我々、奨学金委員をいい気分にしてくれて、ありがとうと申し上げます。

三十八年度　東京都在
第一企業中央（株）

明柔会奨学委員会より



「優勝」ありがとう

副委員長　鳴海　憲二

第四十七回全日本学生柔道優勝大会、優勝おめでとう御座います。

六年ぶり史上最多十五回目の吉報を帰宅後、武道館へ観戦に行った次男から聞き、「しまった」、と思いテレビのスイッチを入れたのですが、どのチャンネルをみてもニュースはない、仕方なく翌朝新聞で喜びを新たにし又吉田監督、コーチ陣、学生諸君に対しご苦労様、有り難うと感謝の気持ちが湧いて来ました。

私事ですが昨年体調を崩し入院していましたが退院後も杉原先輩、細川君が度々励ましに来ていただき明柔魂を再び思い出し今もリハビリを続けております、今年度より奨学金委員副委員長を務め、少しでも明大柔道部のお役に立てればという気持ちの私にとって今回の優勝は一生忘れることのできない優勝です。

奨学金委員会としてもこの優勝こそが日頃ご支援をいただいているＯＢ各位のサポートへの答えと信じ日々の地道な活動を連覇に向けて続けていくつもりです。

明柔会々員の皆様には奨学金事業に対し多大なご支援をいただいておりますが、尚一層のご理解とご支援の程何卒よろしくお願い申し上げます。

連覇、最多優勝記録更新を期待しております。

Ｓ三十八年度　東京都在
育栄管材（株）



事務局より

明柔会事務局長　浜本　義典

優勝おめでとうございます。

学生達のおかげで、事務局一同も日頃の苦労（大したお役にも立っておりませんが）が一挙に報われたような気が致します。

本当にうれしくおもっております

さて今回の優勝は選手、監督、助監督そしてコーチ陣の努力の結果という事は勿論ですが、ＯＢ会の支援なしでは出来なかった事だと思います。

たびたびの事で恐縮ですが、事あるごとに皆様にご通知申し上げておりますように、明大柔道部の伝統と実績を維持継続して行く為には明柔会の奨学金制度は必要不可欠であります。

幹事会において今回の会報にこの度の奨学金募金事業の中間報告を掲載することになりました。会員各位には種々ご意見もお有りだという事は重々承知致しておりますが、資料をご一読の上、会員相互の公平を計る意味でも未だお申込でない方は、何卒応分のご協力のほど伏して御願い申し上げます。

（資料の作成に当たりましては、十二月五日現在の数字でまとめております。）

五十一年度

一般会員寄付金集計表

申込人数	157名
申込金額	18,720,000-
（入金済額）	（10,355,000-）

平成10年12月5日現在

広　告

中華を極める

中華冷凍食品メーカーとして
専門生の高いプロの商品をつくります

一品香食品株式会社

〒811－0025
福岡県粕屋郡久山町久原3776－14
TEL 092－976－1414
FAX 092－976－1507

海産物問屋

ししゃも製造卸



ちりめん
煮　干
塩乾魚　KKヤマサキ

代表取締役 山崎昌徳　S24商卒
宇和島市中沢町1丁目2　電話(0895)25-1616㈹

ハウスクリーニングから
ビル清掃まで！
＜総合ビルメンテナンス＞

有限会社 リュービ

〒180－0006 東京都武蔵野市中町1－25－7
☎0422(56)0555 FAX(51)2296

まぐろ専門
尾利長水産

代表取締役 杉山澄雄（31年度）

中央区築地 5-2-1
東京中央卸売市場
電話 03—3541—3769

育栄管財株式会社

育栄警備保障(株)

社長 鳴海憲二

本　社　新宿区百人町1－22－26
TEL（363）6351代表
青森出張所　三沢市栄町1－31－142
TEL 01765(3)6678
札幌出張所　札幌市豊平区美園四条8丁目(三光ビル)
TEL 011(811)1899

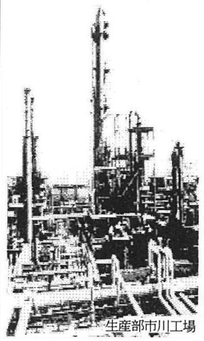
FRESH MEAT cook 肉のクック

代表取締役 吉永浩二
（昭和48年度卒）

株式会社 ヨシナガ食品

（本部）熊本県八代市新浜町1－1
〒866－0031
TEL 0965－35－1129㈹
FAX 0965－32－7829

21世紀へ向って…
躍進する
京葉ガス。



生産都市川工場

京葉ガス

本社 〒272-0033
市川市市川南2丁目8-8
☎0473(25)1121（大代）

生酒のうまさは
しぼりたてが一番。



「富久娘しぼりたて生酒」は、四季醸造でいつでもフレッシュ。アルコール度数は13度とマイルドで飲みやすく、しかも本醸造ならではの独特のこくがおいしさです。きりっと冷やしてお召し上がり下さい。

富久娘
しぼりたて生酒
清酒二級 300mℓ
*アルコール分 13.0度以上14.0度未満
希望小売価格
(消費税込み) 300円

富久娘 しぼりたて本醸造 生酒
東洋醸造株式会社

*お酒は20歳をすぎてから

贈るのは、
ニッポンハムの「本格派」。

幸せな食創り
ニッポンハム
南日本ハム株式会社

本　社 〒883-0021
宮崎県日向市大字財光寺1193番地
TEL（0982）㊿4186
FAX（0982）54-4187

石を通してこれからの都市空間を考えます。

(株)日本公園施設業協会会員
(財)日本造園修景協会会員
(社)日本造園コンサルタント協会賛助会員

代表取締役 高田誠之助
専務取締役 渡辺昌照
公務部次長 代田正俊

株式会社 誠和

本　社　〒104-0032
東京都中央区八丁堀4-10-2　八丁堀ビル
TEL. 03-3553-7201　FAX. 03-3553-7235

横浜営業所　〒221-0025
神奈川県横浜市神奈川区反町4-37-3
ベルハウス横浜反町1103
TEL. 045-312-8244　FAX. 045-312-8247

千葉集配センター　〒227-0932
千葉県東葛飾郡沼南町藤ヶ谷新田字大佛44-1-3
TEL. 0471-93-1651　FAX. 0471-93-1651

採石加工所　国内：岐阜、長野、山梨、山形、群馬
国外：韓国、中国

神永正夫　37年法学部
（福岡支店長）
飛島義紘　40年農学部
（仙台支店次長）
山下憲彰　45年商学部
（千葉営業所病診一課長）

広　告

中島畜産食品株式会社

代表取締役
社　　長　中島　平人
（昭和45年度卒）

本　社　東京都墨田区太平1丁目6番8号
〒130　TEL　(03)　3625-4125(代)
FAX　(03)　3625-4132

多彩宝庫
The ダイヤモンド

横浜地下街株式会社
横浜市西北幸一丁目1番8号
〒220　（横浜東洋ビル）
TEL　045（316）3132
FAX　045（316）8722

小藤田整骨院
院長　小藤田勝彦
（S40年度卒）
東京都板橋区弥生町38－7
TEL　03－3972－0055

うまくて、安い
居酒屋チェーン
居酒屋 万ばん
関西 阪神間　居酒屋チェーン15店舗
昭和38年度卒業
万グループ代表　城　州司郎

総合解体業
株式会社
村上工業
代表取締役 **村上光昭**

〒272　千葉県市川市原木2393-3
電話　0473(28)0979㈹

紳士・婦人・子供
各　種
帽子のミヤシタ
（宮下光男 27年卒）

東京都葛飾区新小岩1-39-9
新小岩銀座アーケード街
電話（3651）0691

株式会社 旭モールディング
常務取締役
福田二朗
（S33年卒）
〈プラスチックのご相談は当社まで〉
本社・足立工場
〒120　東京都足立区宮城1－3－25
TEL　03（3919）3191(代)

FASHION SHORTS PILOT HOUSE
株式会社 **アイリス**
代表取締役　佐々木充行
（41年度卒）

東京営業所　〒103 東京都中央区日本橋久松町11－8 日本橋118ビル5F
TEL（03）3667－1666番
テレファックス（03）3667－1668番
本社　〒779-36 徳島県美馬郡脇町大字脇町802番
TEL（08835）2－1138番㈹
大阪営業所　〒541 大阪市東区安土町1－22－1 プライムビル3F-302 4F-402
TEL（06）264－6285番（直通）㈹

関連会社
- 上海愛麗絲製衣有限公司
- 上海愛麗絲投資諮詢有限公司
- 西安愛麗絲出租汽車有限公司
- 西安愛麗絲畜牧有限公司
- 西安愛麗絲－北島華祥房地産開発有限公司
- 上海振朗交通器材租賃有限公司
- 上海万洋連合発展公司

泉屋の


おくりつづけて50年　お好みの総合メーカー
株式会社 泉屋製菓總本舗
名古屋
「33年度卒 伊藤彰朗」

CK 第一企業中央株式会社
系列会社
第一企業管財株式会社
箱崎興産株式会社
代表取締役　細川隆夫
（38年度卒）
ビル総合管理
清掃、警備、電気、機械
その他ビル管理一式
〒105 東京都港区浜松町2丁目3番25号
マスキンビル7F
電話　03-3578-8123㈹

広　告

新和商事株式会社
冷凍海老・鮮魚・他水産物全般卸売
代表取締役社長　千葉　進三
本社　埼玉県春日部市小渕243　越谷支店　埼玉県越谷市流通団地3-2-1
TEL　0489-61-3980　TEL　0489-86-8072
FAX　0487-54-1485　FAX　0489-88-5304
58年度卒　千葉　宏之

日本石油株式会社
ブリヂストンタイヤ　特約店
ヨコハマタイヤ
大成火災海上保険代理店
松岡商事株式会社
代表取締役　松岡義隆
本社　熊本県八代市高下西町1827
電話　0965-33-2181～2182

給食用食品卸
㈱　富士産業
代表取締役　谷藤義明
（34年度卒）
〒173　東京都板橋区大谷口上町44-11
電話（03）3956　9615

新和商事株式会社
海老・ふぐ・鮮魚他水産物卸
本社　埼玉県春日部市小渕243
☎　0489－61－3980
支店　埼玉県越谷市流通団地3－2－1
☎　0489－85－2084
代表取締役社長　千葉進三
58年卒　千葉宏之
63年卒　本間一義

送電線路建設工事設計施工
高田電設株式会社
取締役社長　高田喜之
（昭和30年度卒）
本社　東京都新宿区大久保1－10－4
電話　03（3209）8241（代表）
支社・出張所　仙台・名古屋・札幌

タオル製品製造販売
四国商事株式会社
〒165 東京都中野区新井1丁目15番12号
電話（386）5664・7619番
浜本義典（51年度）

日本工業規格表示許可工場
宮崎生コン株式会社
代表取締役　宮崎照満
（昭和44年度卒）
本社／熊本県八代市郡築一番町213
TEL　0965－37－0224

ジャムの専門メーカー
JAS規格認定工場／輸出品製造承認工場
株式会社スドージャム
営業所　東京・大阪・札幌・仙台　工松本
名古屋・福岡・松本　場三木（兵庫県）
長野県松本市大字笹賀5958番地　☎松本26－6811

武里柔道クラブ
会長　小川登志雄（S33年度卒）
埼玉県春日部市大枝904－4
☎　048－736－6059

飼料用外国産大麦・恵比須印圧ペン麦・挽砕麦
二種混合飼料　コーンフレーク・醸造原料
製造販売
合名会社 **塚本食糧工業所**
〒838 福岡県甘木市大字甘木2420
☎0946(22)2061～2㈹　FAX 0946(24)4564
取引銀行　福岡シティ銀行甘木支店
福岡銀行甘木支店
筑邦銀行甘木支店

㈱ **大村肉店**
大村勝利（S38年度卒）
〒415 静岡県下田市2丁目4－24
TEL（0558）22－0298㈹
FAX（0558）22－4705

株式会社　和千
代表取締役社長　小山美津男
押上営業所　〒131 東京都墨田区押上2-6-1 西神ビル3F
TEL 03-3621-5871㈹ FAX 03-3621-5873
本社　〒120 東京都足立区千住仲町26-2
TEL 03-3882-2580　FAX 03-3879-5270
NTT 030-208-3938　IDO 030-516-0084

春日接骨院
春日邦人（37年度）
〒189 東村山市富士見町5-1-77
電話　0423-93-5669

美しく、速く、確実に…
○情報化時代にマッチしたポーラの技術とセンスがあらゆるニーズにお答えします。
○豊かな創造性と高度の品質で皆さまの良きパートナーとしてお役に立ちます。
ポーラ印刷　取締役社長　押切義春
〒141 東京都品川区西五反田2-29-9
五反田アルファビル2F
TEL 03(779)0181　FAX 03(779)0055

㈲真陽紙工所
専務　有田幸訓
〒130 墨田区横川1－13－12
TEL 03－3624－7861

朝日産業株式会社
朝日新聞社新聞、出版物発送業務
代表取締役社長
水野留次郎
東京都港区芝浦3-8-17　TEL.(03)3456－0301

娯楽の殿堂
みとやホール
水道橋・神田・鶯谷・浅草・三河島・上野

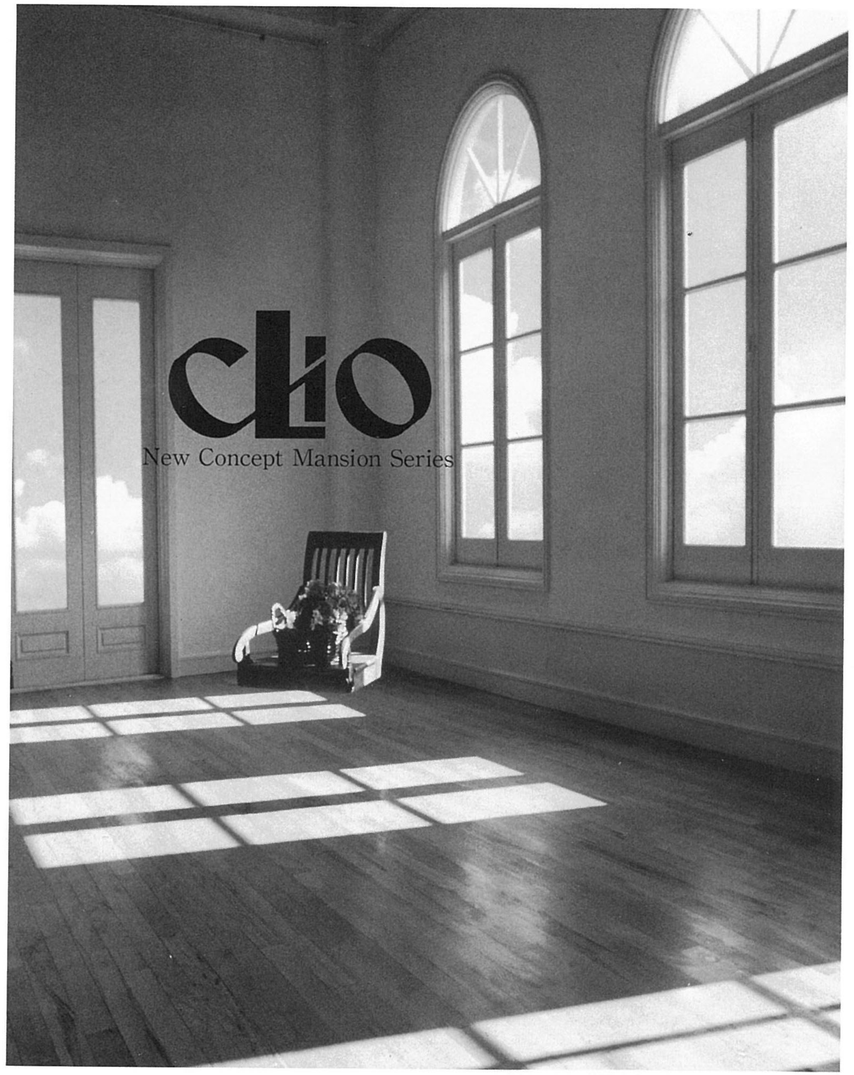
喫茶・パブ・レストラン
山の音
水道橋・鶯谷・浅草

お近くにお越の節は
是非お立寄り下さい!!

代表取締役　中野一郎

〝日常は劇場〟

住居はいわば感動の舞台です。



人が暮らし、豊かに交流する場所。人がいきいきと生活する空間を、私たちはステージと考えております。今日のようにライフスタイルが個性化、多様化し、人々がそれぞれの〝豊かさ〟や〝安らぎ〟を求めるようになった時代、そのドラマの舞台となる〝住まい〟の持つ意味は、かつてなく大きなものとなってきております。明和地所は、住まいを通して新たな生活文化の創造をめざしております。

MEIWA 明和地所

〒150-8555 東京都渋谷区神泉町9番6号 明和地所 渋谷神泉ビル
TEL. 03(5489)0111(大代表)
●建設大臣免許(3)第4118号 ●(社)東京都宅地建物取引業協会会員 ●(社)全国宅地建物取引業保証協会会員

JOMO特約店

アスファルト・石油類総合販

株式会社 男鹿興業社



代表取締役社長 國 安 教 善

本　　社　秋田県男鹿市船川港船川字埋立地1-18-2
TEL (0185) 23－3293(代)
秋田営業所　秋田県秋田市楢山川口境13-7
TEL (0188) 35－3362

男鹿なまはげSS	男鹿市船川港船川字化世沢178	(0185) 24－3292
鹿渡なまはげSS	山本郡琴丘町鹿渡字西小瀬川69	(0185) 87－2316
千秋なまはげSS	秋田市千秋矢留町2－43	(0185) 34－1736
牛島なまはげSS	秋田市仁井田栄町1－31	(0188) 39－2306
広面なまはげSS	秋田市広面字谷地沖22－1	(0188) 32－7633

ステーキ＆シーフード
バンフ

秋田市山王1丁目6の7　淀ビル2F
TEL 0188－62－7633

真心サービスで社員一同
心からお待ちしております。

住宅ローンサービス株式会社
代表取締役 杉原 構
〒160 東京都新宿区西新宿7－13－9
TEL(03)3371-5111 FAX(03)3369-999

私の好きなものは この街にあります。

